

リアホナ



リアホナ



表紙
「墓の前のキリストとマリヤ」
ジョセフ・ブリックキー画



「フレンド」表紙
「光の子供たち」アン・マリー・オ
ボーン画、教会歴史美術博物館、
第6回国際美術コンテストの厚意に
より掲載。

「回復された神権」
30ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ——栄光の冠を受けるために
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 10 貴い約束 十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル
- 16 モルモン書に記された原則——靈的に神から生まれる
地域幹部七十人 アレクサンダー・N・マンゾウス
- 20 末日聖徒の声
クリスタメイの勇氣 クリスティーン・ズインペル
経験したことの無い喜び ダニエル・S・ヒダルゴ
足りなかったパン エベリン・B・シーザー
クーツの良いサマリア人 アラン・P・キングストン
- 25 家庭訪問メッセージ——悔い改めを通して主の愛を感じる
- 30 回復された神権——メルキゼデク神権
- 41 福音クラシック——王国の鍵
第4代大管長 ウィルフォード・ウッドラフ
- 48 読者からの便り



「クーツの良いサマリア人」
23ページ参照

青少年

- 8 わたしに何が足りなかったのでしょうか
ロサリン・コリングズ・イブズ
- 26 神権の奇跡
- 30 回復された神権——アロン神権
- 44 質疑応答——世の中や自分の学校でさえも、非常に多くの恐ろしい出来事が起きています。どうすれば平安を感じる事ができるのでしょうか
- 47 御存じでしたか?



「君はモルモンでしょ」
「フレンド」8ページ参照

フレンド

- F2 預言者の声——分かれ道 第一副管長 トーマス・S・モンソン
- F4 ちいさなみんなのために——イースターのものごと
- F6 分かち合いの時間
——じゅうじゅんをえらぶと、一日中しあわせになります シーラ・E・ウィルソン
- F8 「君はモルモンでしょ」 リサ・パッセイ・ポイントン
- F10 歌——家族 メイベル・ジョーンズ・ガボットとリチャード・クリンガー
- F12 ヒーバー・J・グラントだいかんちょうのしょうがいから——けっしゅつした能筆家
- F14 友だちになろう
——トンガのパンガイに住むフェレティ・ビマヒ アナカ・ビマヒ





「主の御名みなによって祝福し」ウォルター・レーン画

赤ん坊は、命名という特別な理由のために神権の祝福を受ける。そして祝福を授けるメルキゼデク神権者は、靈感に導かれるままに約束を与える。

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン,
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー, L・トム・ペリー, デビッド・B・ヘイト, ニール・A・マックスウェル, ラッセル・M・ネelson,
ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ,
ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンシュワンダー
顧問:モンディ・J・ブラフ, J・ケント・ジョリー, W・ロルフ・カー, スティーブン・A・ウェスト

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボーグ

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マービン・K・ガードナー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・パレット, シヤナ・バトラー, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリー・ポーター,
カーン, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オルソン, ジュディス・M・バーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール,
ジョナサン・H・スティーブンソン, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テラー, ジャネット・トーマス, ボール・パンデンバーグ, ジュリー・ワーテル, キンバリー・ウェブ, モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クヌーセン, スコット・パン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレンブラット, ハワード・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワナー

マーケティング部長:クリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレイグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-641512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒1106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 2,400円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール:cur-liahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出る言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブア語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ハルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語, (発行頻度は言語により異なります。)

©2004 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非常目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。ご質問は、Church Copyrights and Permissions Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電話—1-801-240-3959, 電子メール—cor-copyright@ldschurch.org にご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines April 2004.

Japanese, 24984 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。"Gospel Library"(福音図書館)をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

April 2004 no. 4 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

「リアホナ」の活用法

家庭の夕べのための アイデア



「クーツの良いサマリア人」23ページ——アラン・P・キングストンの話を一緒に読みましょう。

アラン・キングストンはほかの宗教を信仰しています。職場、学校、近所などで、ほかの人のために良いサマリア人になるにはどうしたらよいか家族に尋ねてください。

「王国の鍵」41ページ——神の名によって行動するために、教会に正しい権能が必要なのはなぜでしょうか。家族に尋ねてください。いくつかの理由を話し合った後に、ウィルフォード・ウッドラフ大管長の話を読みましょう。ウッドラフ大管長は、預言者ジョセフ・スミスが十二使徒に神権の鍵を授けたことについて話しています。

「わたしに何が足りなかったのでしょうか」8ページ——完全になろうと試みたことがあるか家族に尋ねてください。それはうまくいきましたか。著者が感銘を受けたエテル書の聖句を強調しながら、家族と一緒にこの話を読みましょう。イエス・キリストの恵みについて、また、その恵みがどのように罪や弱さを克服する助けとなるか話し合ってください。

「神権の奇跡」26ページ——バプテスマのヨハネが、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れアロン神権を回復してから175年になります。アロン神権の回復の大切さについて家族と話し合ってください。また、アロン神権が再び地上にもたらされたことにより、家族はどのような祝福を日ごろ受けているでしょうか。話し合しましょう。

「分かれ道」F2ページ——アリスがチェシャ猫に会った場面とチェシャ猫のアリスに対する返答を家族と一緒に

読みましょう。人生でどんなことを達成したいか子供たちに尋ねてください。どんな道を通っても目標にたどり着けるでしょうか。正しい道を通っていることを何が教えてくれるでしょうか。道筋にはどのような危険があるでしょうか。話し合ってください。

「君はモルモンでしょ」F8ページ——友達によく思われたいためにやったことで、後悔したことはあるでしょうか。子供たちに尋ねてください。そのときの気持ちや、悔い改めるためにしたこと、またはできることを話し合しましょう。たいていの人には、ほかの人に同調してばかりいる人より、自分の信条に誠実な人を尊敬するものであると説明してください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略	
愛	10, 25
愛しい	2, 8, 16
愛しい	2, 8, 16
イエス・キリスト	30, F14
2, 8, 10, 25, 44, F4, F6	選択の自由
1	特質
16, 20	改心・改宗
F6, F11, F14	家族
1, F11	家庭の夕べ
25	家庭訪問
30, 41, 47	教会歴史
2, 25, F8	悔い改め
10	謙遜
47	指導性
44, F2, F6	従順
26, 30	備え
20	障害
41	ジョセフ・スミス
F6	初等協会
26, 30, 41	神権
16, 20	信仰
20	聖餐
	世界に広がる教会
	イエス・キリスト
	2, 8, 10, 25, 44, F4, F6
	1
	16, 20
	F6, F11, F14
	1, F11
	25
	30, 41, 47
	2, 25, F8
	10
	47
	44, F2, F6
	26, 30
	20
	41
	F6
	26, 30, 41
	16, 20



栄光の冠を 受けるために

第二副管長

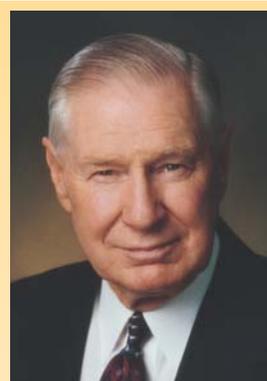
ジェームズ・E・ファウスト

人生はわたしたち一人一人に、いばらやとげ、あるいはいばらの冠のように、わたしたちを悩ませる様々なチャレンジをもたらします。救い主はいばらの冠をかぶせられて、苦しみをお受けになりました。しかし、人生にはそれだけでなく、この上なくすばらしい美しさと芳しさ、そして栄光の冠もあるのです。

どうして人は現世で非常に多くの難しい問題に対処しなければならないのか、その根底にある神聖な目的のすべてを、わたしはもっとよく理解したいと願っています。リーハイはその一つの理由を説明しています。すなわち、わたしたちがこの現世にお

いて善とすばらしさを味わい、楽しむためです。¹ アダムは、地がのろわれてわたしたちのためにいばらとあざみを生じるであろうと告げられました。² 同様に、現世の生涯は、わたしたちが試しを受けて自らのふさわしさを証明できるように、この世の誘惑であるいばらや罪というとげに「のろわれ」ているのです。これはわたしたちの永遠の進歩に必要なことです。使徒パウロは次のように説明しています。「そこで、高慢にならないように、わたしの肉体に一つのとげが与えられた。」³

自分自身の罪、自分自身の利己心、自分自身の弱さを否定することは、いばらの冠に似ていて、永遠の成長という階段をもう一步上ることからわたしたちを引き離します。もし自分が罪人であることを否定するなら、どのようにして救しを受けられるのでしょうか。もし悔い改めがなければ、どのようにしてイエスの贖いあがながわたしたちの生活に及ぶでしょうか。もし罪というとげや肉体的な誘惑といういばらを速やかに取り除かなければ、どのようにして主の癒しいやをわたしたちの魂に招くことができるのでしょうか。救い主はこう告げておられます。「わたしがあなたがたを癒すことができる



もし悔い改めがなければ、どのようにしてイエスの贖いあがながわたしたちの生活に及ぶでしょうか。もし罪というとげや肉体的な誘惑といういばらを速やかに取り除かなければ、どのようにして主の癒しいやをわたしたちの魂に招くことができるのでしょうか。

ように……自分の罪を悔い改め、心を改め〔なさい。〕⁴

わたしたちを憎み、不当に扱い、迫害する人々のために祈るのは、とても難しいことです。しかし、このきわめて重要なもう一步を踏み出すことを怠るならば、わたしたちは自分自身の魂を悩ませているとげを抜くことはできません。妻や夫、子供、友人について気づいた欠点や弱さに対して、赦しと愛、思いやりを示すならば、もっと容易に次のように言うことができるでしょう。「神様、罪人のわたしをおゆるしてください。」⁵

人生の小道をどんなに注意深く歩いて行っても、いばらやとげを避けることはできません。少年時代、わたしたちは夏休みになると農場へ行き、はだしで歩き回ったものです。最初の1、2週間は、足の裏が柔らかいので、滑らかな小石や小枝を踏んでも、痛みを感じました。しかし、数週間もすると足の裏は固くなって、ほかのどの草よりも多いと思えるあざみを除けば、ほとんどのものに耐えられるようになりました。人生もそれと同じで、わたしたちが成長して成熟し、いばらの冠をかぶられた主に近くいられるようになると、わたしたちの魂はチャレンジに耐えられるように強められ、世の罪悪から自分自身を守るための決意は固くなり、意志は強固になり、自制心は増し加えられます。しかし、これらの罪悪はどこにでもあるので、わたしたちはこの世の誘惑というあざみからできるだけ離れた道をいつも歩かなければなりません。

わたしたちは子供のときに、冠毛のついたあざみの茎を振って、種が風に飛ぶのを見て喜んだものです。この行為が自分の家や近所の家の畑に及ぼす影響に気づくのは、ずっと後になってからでした。多くの人は誘惑をもてあそぶのを楽しみますが、自分やほかの人々がいかに不幸の種をまいてしまったか、そして自分が隣り人の幸福にどんな影響を与え得るかは、後になって学ぶのです。

良心の守り

善悪を識別するための防御手段があります。それは良心と呼ばれています。良心の痛みは、罪に対する霊の自然な

反応です。ちょうど、小さなとげによる傷であっても、傷に対する体の自然な反応として肉体が痛むのと同じです。良心は使うことによって強くなります。パウロはヘブル人にこう言いました。「しかし、堅い食物は、善悪を見わける感覚を実際に働かせて訓練された成人のとるべきものである。」⁶ 鋭敏な良心は、健全な霊のしるしです。

人生のいばらやとげを取り除くにはどうしたらよいでしょうか。自分の生活やほかの人の生活からいばらを取り除く力は、自分自身から始まります。モロナイは、わたしたちが神の御心に添わないものを拒むならば、キリストの恵みはわたしたちに十分であると記しています。⁷

あまりに多くの場合、わたしたちは痛みの原因であるいばらを取り除くよりも、罪悪感を覆ってくれる包帯を求めます。とげを抜くときの一時的な痛みは、わたしたちはどれほど耐えようとしているのでしょうか。とげさえ抜けば、化膿した傷の長期にわたる痛みから解放されるのです。だれでも知っていることですが、いばらやとげを体から抜き取らなければ、傷口は化膿してしまって癒されることはありません。

数年前、わたしたちの家族はベンという名のすばらしい犬を飼っていました。ある秋の美しい日に、家族で牧草地を散歩していました。ベン

はわたしたちの前や後を行ったり来たりし、地面のにおいをかぎ、しっぽを振り、楽しんでいるのは明らかでした。しばらくすると、ベンは片足を引きずって主人の前に来ました。そして目で痛みを訴えながら、前足を持ち上げました。足の指の間にとげが刺さっていました。注意深くとげを抜いてやると、ベンは走り出して、もう足を引きずることも、痛みを悩まされることもありませんでした。わたしは驚きました。ベンが痛みから解放されるにはとげを抜き取る必要があります。そしてそのためにどこに行かなければならないのか、本能的に知っているように思えたからです。ベンのように、わたしたちも自分を悩ます罪というとげから解き放たれるのを本能的に待ち望んでいるようです。しかし、対照的なのは、解放されるためにすべての人が主に



わたしたちは子供のときに、冠毛のついたあざみの茎を振って、種が風に飛ぶのを見て喜んだものです。この行為が自分の家や近所の家の畑に及ぼす影響に気づくのは、ずっと後になってからでした。多くの人は誘惑をもてあそぶのを楽しみますが、自分やほかの人々がいかに不幸の種をまいてしまったかは、後になって学ぶのです。

助けを求めるとは限らないということです。それどころか、まだ自分の主がどなたかを知らない人さえ大勢いるのです。

わたしたちの救い主の賜物^{たまもの}

イエスが受けられた苦しみにもとげのついたいばらが幾分関係しています。

「それから総督の兵士たちは、イエスを官邸に連れて行って、全部隊をイエスのまわりに集めた。

そしてその上着をぬがせて、赤い外套^{がいとう}を着せ、また、いばらで冠を編んでその頭にかぶらせ、右の手には葦の棒を持たせ、それからその前にひざまずき、嘲弄^{あざわら}して、『ユダヤ人の王、ばんざい』と言った。

また、イエスにつばきをかけ、葦の棒を取りあげてその頭をたたいた。』⁸

恐らくこの残酷な行為は、皇帝が頭に月桂樹の冠をかぶるのをまねた邪悪な試みだったのでしょう。主は御自身が与えると約束された偉大な賜物の一部として、いばらの冠の痛みを受け入れられました。地がアダムのためにのろわれたときに、いばらが神の御心に添わないことを表していたことを考えると、何と胸の痛むことでしょうか。しかし、イエスはその冠をかぶることによって、いばらを主の栄光の象徴に変えられたのです。エミリー・ディキンソンは、それを実に適切に表現しています。

だれも求めない一つの冠
しかし、最も気高い御方が
その孤独を自ら求め、
その恥辱を聖なるものとされた。⁹

救い主は、わたしたちが受ける苦しみのあらゆる面を「肉において」知っておられます。主

にとつて精通しておられない弱さはありません。苦悶^{くもん}の中で主は、わたしたちを苦しめるあらゆるいばらやとげ、あざみを直接知るようになられたのです。

「そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉^{みことば}が成就するためである。

また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が隣れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。』¹⁰

肉体や霊に刺さったとげは、化膿する前にすべて取り除かなければなりません。しかし、たとえ傷口がただれても、また激しい痛みを生じるようになっても、それらを取り除くことができます。癒しのプロセスをたどることができる

のです。高慢といういばら、利己心というあざみ、うぬぼれや

高慢^{こまん}といういばら、
利己心^{りきしん}という
あざみ、
うぬぼれや欲望^{よぼう}という
とげを取り除くのは、
容易な^{やす}ことでは
ありません。しかし、
傷が癒されると、
痛みは消え去るでしょう。
このプロセスは
悔い改め^{いげ}として
知られています。
悔い改めと救いは、
贖罪^{じゆんざい}の結ぶ最大の
実の一つなのです。



左—写真/タッド・R・ピーターソン、写真はイメージです。



わ たしが
すべての人に
チャレンジ
したいことは、
人生で遭遇する
いばらやとげやあざみを
正しい見地からとらえる
ということです。
わたしたちはそれらに
対処しなければ
なりません、そのときに
人生のとげではなく
花に目を注ぐように
すべきです。



生活の中から罪といういばらや世の誘惑というとげを取り除くことにより、また自分を捨て、自分の十字架を負って主に従うことにより、わたしたちはいばらの冠を栄光の冠に変えることができます。

欲望というとげを取り除くのは、容易なことではありません。しかし、傷が癒されると、痛みは消え去るでしょう。このプロセスは悔い改めとして知られています。悔い改めと赦しは、贖罪しよくざいが結ぶ最大の実の一つなのです。

ブラジルの大都市サンパウロの郊外に位置するロザランディアには、何エーカーにも及ぶ美しいバラ園が広がっています。そこにある小さな丘の頂に立つと、かぐわしいバラの香りと美しい景色を堪能たんのうすることができます。バラの茂みにはとげがありますが、景色と香りのすばらしさを少しも損ねることはありません。わたしがすべての人にチャレンジしたいことは、人生で遭遇するいばらやとげやあざみを正しい見地からとらえるということです。わたしたちはそれらに対処しなけれ

ばなりません、そのときに人生のとげではなく花に目を注ぐようにすべきです。バラやサボテンの花の香りと美しさを楽しむのです。花の芳香を楽しむためには、義にかなった規律正しい生活を送る必要があります。聖文の研究、祈り、正しい優先順位と正しい態度を生活の中に組み込む

のです。この教会の会員であれば、その焦点は神殿の中で研ぎ澄まされます。だれもが確かに何らかのいばらに遭遇しますが、それは花の甘い香りとこの上ない美しさに付随して起こるにすぎません。救い主はこう告げられたのではないのでしょうか。「あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。茨いばらからいちじくを集める者があるのか。」¹¹

主に従う

イギリスの作家トーマス・カーライルは、次のように述べています。「地上にいつまでも存在する高貴な冠はどれも、いばらの冠である。」¹² 古代ラテン語の名言“*sic transit gloria mundi*”は、「この世の栄光はかく消え行く」という意味です。この世の報いは、甚だしい誘惑になることがあります。それとは対照的に、奉仕の業に献身する忠実な人々は、「誉れと、栄光と、不死不滅と、永遠の命を冠として与えられる」¹³ と約束されています。ですから、世の誉れも試練も、忠実な人々を打ち負かすことはできません。パウロは「朽ちない冠」¹⁴ について語り、ヤコブは忠実な人々が「いのちの冠を受ける」¹⁵ と述べています。

権力や金銭欲、物質的なものへの執着心、人の誉れのようなこの世の冠は、与える以上に

受けることや獲得することを基にしているのです。わたしは、それらがいばらの冠であると信じています。利己心は、わたしたちが高貴な冠であると思っているものを、自分の力では耐えられないいばらの冠に変えることがあるのです。

イエス・キリストはわたしたち一人一人に次のように呼びかけておられます。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」¹⁶ 自分のことだけ考えて利己的な小さな世界に没頭するのではなく、今こそ救い主が勧告されたように、自分を捨てて、自分自身を制することを始める時ではないでしょうか。問題は、わたしたちが何をすることができるかではなく、わたしたちを通して神が何をされるかということです。パウロはこう述べています。「もし人が卑しいものを取り去って自分をきよめるなら、彼は尊いきよめられた器となって、主人に役立つものとなり、すべての良いわざに間に合うようになる。」¹⁷

自分の十字架を負って救い主に従うとは、常に奉仕の業に献身することです。わたしは学生時代にとっても貧しい生活をしていました。湯気が出るほど熱い缶を扱う缶詰工場、時給25セントで長時間働きました。そこでわたしは学んだのですが、どれだけ持っているかよりも、持っているものに対してどう感じているかが、利己心に関係するということです。貧しい人が利己的になり、裕福な人が寛大になることはありますが、自分の利益だけに取りつかれた人が神を見いだすのは困難でしょう。わたしは、特権には必ず責任が伴うことを知ようになりました。その責任とは普通、仕え、与え、祝福する責任です。どのような特権でも全能の神の御心に添って使われなければ、神によって取り上げられてしまうでしょう。忠実かつ献身的に仕え、与え、祝福するというチャレンジを果たすことが、初期の使徒たちによって語られた栄光の冠を享受する唯一の道です。それこそが真の意味で命に至る唯一の道なのです。そうすれば、この世の誉れであれ、あざけりであれ、同じように平静な気持ちで受けることができるでしょう。

最後にエゼキエルの言葉を引用したいと思います。「人の子よ、……たとえあざみといばらがあなたと一緒にあっても、またあなたが、さそりの中に住んでも、……恐れてはならない。」¹⁸ 絶えず変化する世の中であって、祈りや信仰、救いの聖約、家族の愛、兄弟愛など、変わるもののないものに絶えずしっかりと付いていくことができますように。生活の中から罪といういばらや世の誘惑というとげを取り除くことにより、また自分を捨て、自分の十字架を

負って主に従うことにより、わたしたちはいばらの冠を栄光の冠に変えることができます。わたしはイエス・キリストの特別な証人となるために召された、主のつたない僕の一人として証します。主は生きておられます。わたしたちは主の神聖な業に携わっています。もし忠実であるならば、誉れと、栄光と、永遠の命の冠を受けられることを心から証します。■

注

1. ニーファイ2:8-13参照
2. 創世3:17-18参照
3. 2コリント12:7
4. 3ニーファイ9:13
5. ルカ18:13
6. ヘブル5:14
7. モロナイ10:32参照
8. マタイ27:27-30
9. "One crown that no one seeks." *The Complete Poems of Emily Dickinson*, トーマス・H・ジョンソン編(1960年), 703-704
10. アルマ7:11-12
11. マタイ7:16
12. *Past and Present* (1912年), 173
13. 教義と聖約75:5
14. 1コリント9:25参照
15. ヤコブの手紙1:12
16. マタイ16:24
17. 2テモテ2:21
18. エゼキエル2:6

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。いくつかの例を以下に紹介します。

1. 犬のベンの物語を読む。家族の人々に、各自の生活を心の中で吟味し、主に取り除いていただく必要のあるとげがないかどうか考えてもらう。

2. 第4段落を読む。家族の人々に、憐れみを求める前に赦す必要のある人がいないかどうか考えてもらう。

3. 最後から2番目の段落を読む。家族の人々に、神の王国で奉仕することをすでに約束している事柄をいくつか列挙してもらう。それらの約束をどのように具体的に果たしているか尋ねる。

4. 最後の段落を読む。家族の人々に、どうしたらいばらの冠を栄光の冠に変えることができるか尋ねる。救い主はどのようにしていばらの冠を栄光の冠に変えられたのだろうか。

わたしに何が足りなかったのでしょうか

ロサリン・コリングズ・イブズ



わたしは薄い緑色のベッドカバーの上に体を投げ出し、天井をじっと見詰めていました。涙をこらえているとどが苦しくなりました。わたしのどこが間違っていたのか理解できなかったのです。それはある美しい春の日のことでした。わたしと同僚は、ハンガリーのケチケメートで数人のすばらしい求道者を教えていました。わたしは主に仕えていたので喜びにあふれているはずでした。それなのに、どうしてうまくいっていないという気持ちにとらわれてしまったのでしょうか。

わたしは、時として能力に欠けているという気持ちと闘っている宣教師をたくさん見てきました。その当時、そのような気持ちがわたしの心に住み着いたように思えたのです。でも、わたしは行くべきことを正しく行っていなかったのでしょうか。定期的に祈り、聖文を読み、一生懸命に働き、宣教師のルールに従うことを怠っていたのでしょうか。いいえ、そんなことはないはずです。それでも、わたしは自分がまったく不完全であると感じていました。わたしの欠点が妨げになって、福音を聞く必要のある人に主が手を差し伸べることがおできにならないのではないかと思えたのです。

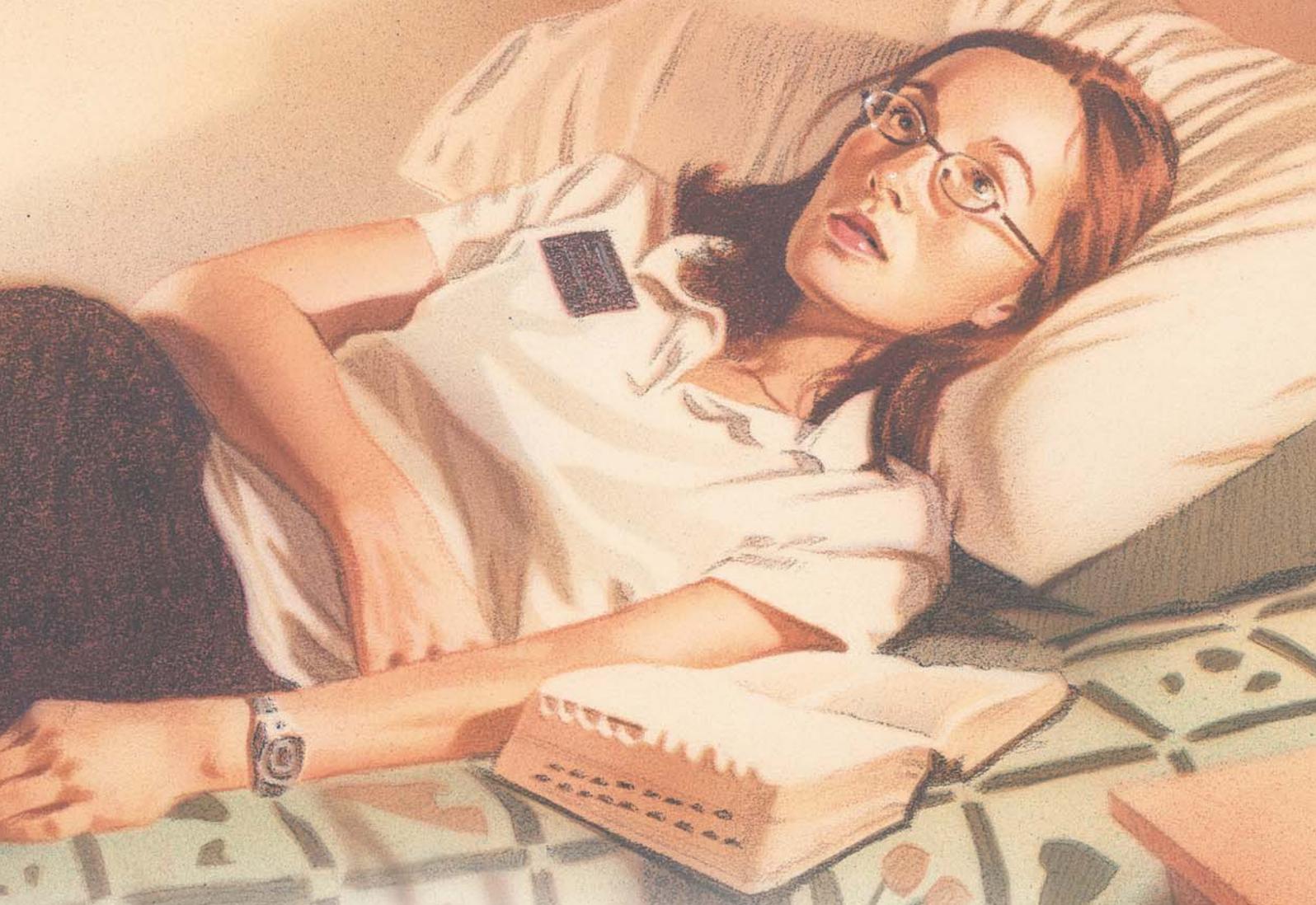
わたしの同僚は、ベッドの上で家族からの手紙を読んでいた。彼女に話しかけたかったのですが、彼女はこの国に

来たばかりで、宣教師の生活に慣れることとハンガリー語を学ぶことだけで必死でした。彼女にはわたしの問題に耳を貸す余裕などないだろうと思いました。

わたしは聖文を開くと、エテル書第12章27節を読み始めました。「もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える。わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。」

わたしの目はここで止まりました。これはわたしの好きな聖句の一つでした。宣教師訓練センターにいるときも、ここを何度も読み、この聖句についてよく祈ったものです。「謙遜さを与えてください、強くなれるように助けてください」と主をお願いしたのです。主がしばしばわたしたちの弱さを通して謙遜についてお教えになることを、わたしは知っていました。会堂から追い出された貧しい人々について、アルマもそのように語ったのではないのでしょうか(アルマ32:6-16参照)。わたしが謙遜という特質を身に付けられれば、主がわたしを強くしてくださることを知っていました。しかし、わたしは強くなったとは感じていませんでしたし、自分の弱点は日増しに明らかになるばかりでした。そうだとすると、わたしには何が足りないのでしょうか。

もう一度その節を読むことにしました。今度は違った印象を



受けました。今まで読んだときには何かを見落としていたように
した。「わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの
恵みは十分である。」この聖文を改めて読んだとき、御霊を感じ
ました。「キリストの恵みは十分なのだ。」御霊の導きによっ
てこの聖句の真の意味が分かったような気がしました。

続いて、モルモン書の最後のページを開いてモロナイのす
ばらしい勧めの言葉を読みました。「まことに、キリストのもと
に来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わ
ないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に
添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を
愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなた
がたは神の恵みにより、キリストによって完全になることがで
きる。」(モロナイ10:32)

御霊はわたしに教えようとしていたのです。わたしの問題
は、何か間違ったことをしていたということではなく、正しいこ
とを行うのを怠っていたということでした。イエス・キリストの
前に自分を謙遜にしたり、自分の弱さを克服するために主の
助けを願い求めたりすることよりも、わたし自身のプライドから
自分を完全にしようとしていたのです。物事がうまくいかない
のは当然です。独りで完全になれる人はいません。キリスト
の助けによって、キリストにあつて完全になれるのです。自分

にできることを精いっぱいしなければならぬのは言
うまでもありません。そして、ほんとうにキリストのもと
に来なければ、救われることも、わたしたちの生活に贖
いの効力が及ぶこともないのです。しかし、わたしたち
がもしキリストのもとに来るなら、キリストの恵みはわた
したちにとって、少なすぎるのでもなく、必要なだけあ
るのでもなく、十分にあるのです。

一夜にして事態が変わったわけではありません
が、穏やかな気持ちを感じ始めました。それでも
時折苦闘することはありましたが、贖いについて
学んだことにより、永遠の旅路を歩めるようになり、
あらゆることを独りで堪え忍ぶ必要がないことを思
い起こせるようになりました。

宣教師として奉仕したあの機会に、わたしはこれから
もずっと感謝し続けるでしょう。そして、とりわけハンガ
リー、ケチケメートでのあの静かな夜に感謝していま
す。そこでわたしは、人の心を癒し、健やかにしてくれ
る贖いの効力を学んだのです。■

ロサリン・コリングス・イブズは、ペンシルベニア州アルツーナ
ステーキのステート・カレッジ大学ワードの会員です。

貴い約束

十二使徒定員会
ニール・A・マックスウェル



**主の堅固な岩の上に
基を築くには、
キリストの特質を
熱心に見習う必要が
あります。**

多くの人々が倒れ、打ちひしがれる世にあって、ヒラマンの記した勧告と約束ほど現実的で意義深いものはありません。「覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖^{あがな}い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。……人がその上に基を築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」(ヒラマン5:12) 偉大な救い主イエス・キリストこそ、この貴い約束を含むすべての約束を成就することのできる御方です。

主の堅固な岩の上に基を築くには、キリストの特質を熱心に見習う必要があります。キリストをほめたたえるだけでは、喜びも安全も得られません。重要なのは、主を熱心に見習うことです。そうすると、わたしたちの人格が(それは霊から不純物を除いて築き上げた建物のようです)、少しずつその姿を現してきます。人格こそ、建物を囲んでいる足場、すなわちわたしたちを取り囲む状況がすべて取り除かれたときに残るものなのです。

人格を築き上げる過程

人格を築き上げていく貴い過程を通して、人格の様々な側面はすべて相互に作用してい

ます。一つの側面を伸ばすときには、他の側面も伸ばされ、思った以上に成長しているということがあります。パウロはある霊的な法則について次のように述べています。「患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出す……。」(ローマ5:3-4) そして、希望はさらに神の愛をもたらします。もしも柔和な心で「軽い患難」を身に受けるなら、それが何であろうと、やがてははるかにすばらしい「重い栄光」に導かれることでしょう(2コリント4:17)。

「わたしたちがこの世において得る英知……は、復活の時にわたしたちとともによみがえる」とありますが(教義と聖約130:18)、福音の意味する英知とは、知能指数とは異なります。英知とは、全人格を意味し、「神の性質」を表します(2ペテロ1:4)。勤勉であるならば、この人生において信仰、忍耐、信心、兄弟愛、そして慈愛が備わり、いよいよ豊かになります。そしてこれらの特質を持つときに、「わたしたちの主イエ





主は過去も
現在も、宇宙の
主であり、
御父の指示の下に
「無数の世界」を創造
されました。それでも、
大工の息子である
ナザレのイエスとして
知られることを
良しとされました。
主は常に、御自分が
何者であるかを
知っておられたのです。

ス・キリストを知る知識について」実を結ぶのです(2ペテロ1:8)。

キリストのような特質を身に付けていくときに、「御父の用向き」(ルカ2:49、欽定訳から和訳)に携わるのに真にふさわしい者となることができます。この過程のすばらしさは、毎日の平凡な繰り返しの中にあっても、日々御父の用向きに従事できるということであり、その中で果たした事柄は減びることなく、死の幕を超えて携えて行くことができ、復活の時にもともによみがえるということです。

ヤコブは、「的のかなたに目を向けたために」すべての中心であるキリストが目に入らなかった人々について書いています。さらに、盲目となって道に迷った人々は「墮落しなければならなかった」という不幸な結末について述べています(モルモン書ヤコ

ブ4:14)。救い主に目を向けなければ、キリストのような特質を築くことも、さらに堅固な基を築くこともできません。

もちろん福音や教会への改宗は、突然の気づきや聖なる御霊の証によって急速にもたらされることもあります。しかし、例えば、忍耐のような特質をさらに伸ばすには、時間を要します。忍耐は「今すぐに」身に付くものではありません。わたしがお伝えしようとしている人格を築く貴い過程については、世の人々から理解や助けを得ることを期待しないでください。

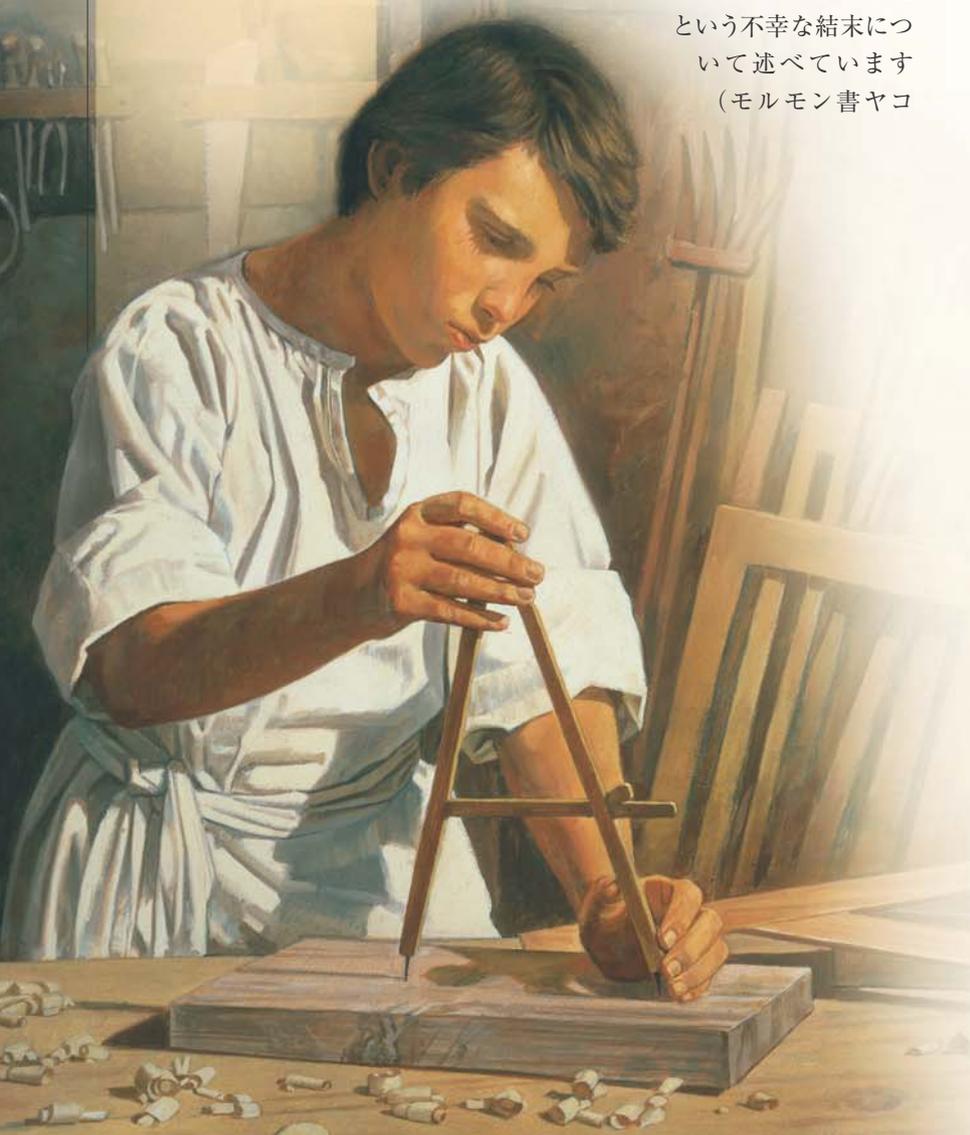
幸い、御霊のささやきが、ほとんどだれの目にも触れることなく、その道を進むわたしたちの背中を押してくれます。道を進む間ずっとわたしたちは、自分自身のために、またほかの人々のために強くあることが必要です。なぜなら、バビロンから出て来る人々、「大きく広々とした建物」から逃れて来る人々がおり(1ニーファイ8:26)、彼らは皆さんのような人々と出会う必要があるからです。

キリストの特質の例

ここで、わたしたちが熱心に見習うべきキリストの特質を幾つかお話しします。これらは、すでに善良である人々にとっても見習うべきものです。キリストを世の光であられると考えるわたしたちは、すべてのものを主の光によって見る必要があります。無宗教者が何を言い、何を考えようと、主の弟子は真の意味で現実主義者なのです。

すべてを知っておられる神やイエスと違い、わたしたちは度々混乱します。予期せぬ事柄に動揺したり、未知の事柄に不安を覚えたりします。どうしても神の視野が必要なのです。さらに言えば、イエスがわたしたちを救うために必要なすべての代価を支払ってくださったにもかかわらず、わたしたちは弟子として求められるすべての費用を支払うのを、いまだにためらっているのかもしれませんが。それには、弟子としての重要な特質を伸ばすことも含まれます。

また、キリストはすべての誘惑に打ち勝たれましたが、わたしたちはいまだにためらっており、誘惑について考えてしまうことがあります。主は誘惑を「少しも心に留められなかった」と聖文に記されています(教義と聖約20:22参照)。主



の模範は何と力強く、雄弁に語りかけていることでしょう。

また、なすべきことをしないとという怠惰の罪について繰り返し教えられても心に留めず、大きな罪を犯さなければ十分であるかのように振る舞いがちです。ほかの何よりも、怠惰の罪について心に留めるときに、静かにではあっても、より大きな成長を遂げることができると、わたしは考えています。これは特に、善良な人々に言えることです。

愛

イエスは、天の御父と同じように、完全な愛の模範を示されました。イエスは御父とわたしたちを深く愛しておられたので、柔和に、そして従順に、御自分の御心が御父の御心にのみ込まれるのを良しされました。それによって、主は賤い業を全うされたのです。それには、莫大な数の人が普遍的な復活を無償で祝福されることも含まれていました。主のなされた業を思い巡らすとき、心揺さぶられる思いがします。だからこそ、主はわたしたちを助けることができになるのです。主はその方法を御存じです。

キリストは、その深い愛を、最後の苦しみの間でさえも示されました。御自分の背負われた苦悶よりもはるかに小さな事柄に苦しんでいる人々に気づき、慰めをお与えになりました。例えば、ゲツセマネの園で耳を切り落とされた襲撃者に心を留め、その耳を癒されました。十字架の上では、ヨハネに御自分の母マリヤの世話をするようにお命じになり、また隣の十字架につけられている罪人を慰められました。

それとは対照的に、皆さんやわたしが自己を哀れに思っているときには、ほかの人々の必要に気づくことができずにいます。もう少し努力することによって、もう少し人の必要に心を留め、もう少し慰めを与えることができるはずですが、愛する人々について思い巡らしてみてください。その人々の輪は広がりつつありますか、それとも同じ大きさのままですか。その輪の中の人々に対する、あなたの気遣いの質はどうでしょうか。形式的なものにならないように努力していますか。人々とつきあううえで、個人的ではなく、機械的に同じことを繰り返すのは非常に簡単なことです。あなたと同じように成長しようと努力している人々に対して、愛と忍耐を抱いていますか。それとも、性急で批判的な態度で、ヒナギクの花を絶えず引き抜いては、根の伸び具合を確かめるようなことをしてはいないでしょうか。

ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)は、愛はすべての基本となるものであると述べました。「聖徒たちが大切にし、

実行するならば、何千もの人々に救いを保証する一つの徳〔または〕属性……があります。わたしが述べているのは、慈愛すなわち愛です。赦しや寛容、親切、忍耐は慈愛から出るのです。』¹ほかのあらゆる徳は、愛から出るものであり、愛を反映したもののなのです。

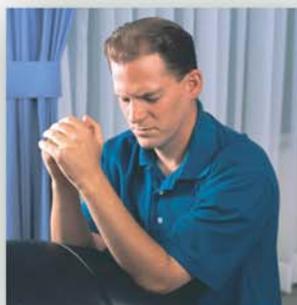
忍耐と寛容

イエスはまた、忍耐と寛容の完全な模範も示しておられます。主が「一つの永遠の環」であると語られた(教義と聖約3:2)、主の道の意味について考えてみてください。わたしたちは同じことの繰り返しを嫌い、うんざりしてしまいます。しかし、完全な愛を備えられた神と御子イエスが、御自身の「一つの永遠の環」に飽きられるようなことは決してありません。神は、時間のかかるわたしたちに対して忍耐強くあられ、また、わたしたちを助けるために、わたしたちの忍耐と信仰を試してください(2テサロニケ1:4;ヤコブの手紙1:3参照)。

もしも、試しを受けずにいるならば、永遠の来世に携えて行けるこれらの特質は、未発達のままになるでしょう。わたしたちが生まれながらの人を捨てて、キリストの人となるには、筋肉を鍛えるのと同様に訓練が必要です。これらの訓練は実は祝福ですが、一見そのようなものには見えません。時には、まったくの災いとしか思えないような祝福が与えられることもあります。

キリストの弟子として努力するときに、必要な訓練を喜んで受けようとしているでしょうか。主はわたしたちを個人的に指導しながら、次のように言っておられます。「あなたがたは、今はすべてのことに耐えることはできない。……わたしがあなたがたを導いて行く……。」(教義と聖約78:18)主はわたしたちが耐えることのできる限界を御存じです。極限まで追い詰められていると感じることで、やがては主のおかげで、かつては気が遠くなるほどの重荷であった試練が、過去の通過点となる日が訪れます。

傑出した勇敢なエレミヤもまた、かつては落胆していました。あざけられ、迫害されたエレミヤは、一時もう語るのをやめようかと考えました。しかしそのときエレミヤは、神の言葉が「燃える火のわが骨のうちに閉じこめられているようで、……耐えることができません」と言いました(エレミヤ20:9)。エレミヤは極限まで追い詰められても、そこで力尽きることはありませんでした。



**わたしたちは、心を
かたくなにすることなく、
自分の小さな杯を飲む
ことができるでしょうか。
そのような行為は、特に
最も愛する人々に対する
非常にすばらしい
証の伝え方です。**

柔和さと謙遜さ

イエスはまた、柔和さと謙遜さにおいても模範でした。この上なく優れたことを成し遂げられたにもかかわらず、キリストは、前世、現世、来世のいずれにおいても、常に、いつの時も、御父に栄光を帰されました。主は過去も現在も、宇宙の主であり、御父の指示の下に「無数の世界」を創造されました(モーセ1:33)。それでも、大工の息子であるナザレのイエスとして知られることを良しとされました。主は常に、御自分が何者であるかを知っておられたのです。歴史上最も苦い杯を柔和な心で飲まれた主は、心をかたくなにされることはありませんでした。

では、わたしたちは心をかたくなにすることなく、自分の小さな杯を飲むことができるでしょうか。そのような行為は、特に最も愛する人々に対する非常にすばらしい証の伝え方です。地位や名声への願望や、人より少しでも抜きんでたいというこの世的な欲求を、わたしたちは抑えることができるでしょうか。

潮の満ち引きのように移り変わる人生にあって、主の道を備えたバプテスマのヨハネのように、柔和な心で応じることができるでしょうか。彼は己を捨てて、「[イエスは]必ず栄え[られ]、わたしは衰える」と言いました(ヨハネ3:30)。

結婚生活において、わたしたちは柔和でしょうか。「わたし」という代名詞が、「わたしたち」より頻繁に使われてはいないでしょうか。「わたし」という言葉の最善の使用法は、「わたしはあなたを愛しています」「わたしはあなたを心にかけています」「わたしはあなたの言うことに耳を傾けます」という状況で使うことです。そうでなければ、「わたしは……を要求します」「わたしは……が欲しいです」「わたしは……が必要ですよ」というように、あまりに自己中心的になってしまいます。

ささいなことに見えますが、前向きに見方を変えていくことは、長い目で見て大きな違いをもたらします。家族や教会、その他の人間関係において、昨日の罪やわだかまりを明日まで持ち続けるのをやめようと決意していますか。忘れることは赦すことの一部だと考え、人に対する見方を変えることを選んでいますか。

困難な過程

人格を築き上げるのは、どんな建物を建てるよりも難しいことがお分かりいただけたことでしょうか。信仰と忍耐、また主から与えられた青写真を使うことが必要です。情緒的に未熟であるために、計画どおりに建築が進まないこともあり



**もう少し努力すること
によって、もう少し
人の必要に心を留め、
もう少し慰めを与えること
ができるはずですよ。
愛する人々について
思い巡らしてみてください。
その人々の輪は
広がりつつありますが、
それと同じ
大きさのままですか。**

ます。失敗を経験した後、柔和な心で歩み続けるのは容易ではありません。悔い改めによって、新しく改良した部品を組み込むのも簡単ではありません。高慢な心の中で、自分はよくやっているときさやいているときは、特にそうです。

また、キリストのような人格を築く代わりに、安っぽい、この世的な代替品を使うという誘惑に駆られることもあります。善良さの代わりにずるさを使用し、中身よりも見かけを重視して築いたもろい土台は、雨風に耐えることができません。さらに、手抜き工事をしてしていると、恐ろしい地盤沈下が起こります。つまり墮落してしまうのです。ですから、真剣に弟子になろうとする人にはすべて、真剣なりフォーム(自己改革)が求められるのです。

キリストは実に多くの理由で、岩にたとえられています。その土台には一つの亀裂もありません。主はわたしたちを失望させるようなことはなさいません。主は決して揺らぐことなく、主の愛は絶えることはありません。主は間違いなくその目的を果たされるのです。

兄弟姉妹、皆さんはペテロの勧告に従って、自分の煩いを、一切神にゆだねることができます。なぜなら「神はあなたがたをかえりみていて下さる」からです(1ペテロ5:7)。どうぞ、ためらわないでください。何度も何度もそうする必要があるのでしよう。キリストは弟子たちに、1匹の魚を捕まえ、その口の中から一つの硬貨を取り出して、税や貢ぎ物を納めるように言われました(マタイ17:27参照)。弟子たちは魚を見つけると、すぐにそのとおりにしました。主がたった1匹の魚やたった一つの硬貨さえも把握されていることを考えるとき、わたしたち一人一人の人生のあらゆる事柄を御存じでいてくださることを悟り、慰められます。

だからこそ「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言します。なぜでしょうか。それは最愛の人々に「どこに罪の赦しを求めればよいかを、……知らせるため」なのです(2ニーファイ25:26)。

大切な瞬間を逃さない

次に、わたしたち自身の家族について少しお話ししましょう。わたしたちの中には年配の人も、人生半ばの人も、これから家族を持つとする人もいます。子供のいる人もいれば、孫を持つ人もいます。祖父母の家からは、子供たちが皆巣立っていきます。それもまた、御父の計画の一部です。しかし、子供たちが出て行った後も、呼び戻せない過去の貴い

日々を懐かしく思い返していることに気づきます。子供たちが絶え間なく発する甲高い声に以前はいだちを覚えていたのに、その声が聞こえはしないかと、むなしく耳をそばだててしまうのです。かつてはやかましく思えた子供たちの騒ぎ声が、できることならもう一度聞きたい、美しい響きであったことに気づくのです。

今、その騒音のただ中にいる皆さん、その大切な瞬間を逃さないでください。マルタのような心配を減らして、マリヤのような選びを増やしてください。結局のところ、子供たちと交わす特別な会話に比べて、何を食べ、何を飲むかはそう重要ではないのです。もちろん、食事を作り、食べることは必要です。しかし、子供たちを教導いた思い出は、皆さんから取り去られることはありません。

計り知れない主の愛

年配であろうと若かろうと、結婚していようとしてまいと、子供があろうとなかろうと、わたしたちに注がれる贖い主イエスの愛は、まったく計り知れません。憐れみ深い主は「わたし〔は〕日々腕を伸べている」と語っておられます(2ニーファイ28:32)。両手を広げてわたしたちを受け止めようとして待っておられるのです。そしてやがてモルモンが語ったように、わたしたちが「イエスの腕の中をしっかり抱き締められる」日が来ることでしょう(モルモン5:11)。

わたしたちと主との距離があとどれだけあろうとも、主に近づくのはわたしたちの責任です。主のもとに続く踏み石は、すでにそこに置かれています。皆さんは主への信仰によってここまで進んで来ましたが、「眠りに就くまでの道」² ははるかに長く、信仰によってさらに遠くに導かれることでしょう。

御父にささげられた、次の感動的な申し出について深く考えてください。前世において、柔和に、そして簡潔に「わたしがここにあります。わたしをお遣わしてください」と自ら進んで言われた主の申し出を(アブラハム3:27)。これが、その言葉です。

「父に対する弁護者であって、父の前であなたがたのために弁じる者の言葉を聴きなさい。

すなわち、『父よ、罪を犯したことがなく、あなたが御心にかなうとされた者の、苦しみと死

を御覧ください。あなたの子が流した血、すなわち、あなた御自身が栄光を受けるために、あなたがお与えになった者の血を御覧ください。

そのために、父よ、わたしの名を信じるこれらわたしの兄弟たちが、わたしのもとに来て永遠の命を得られるように、彼らをお救いください。』(教義と聖約45:3-5)

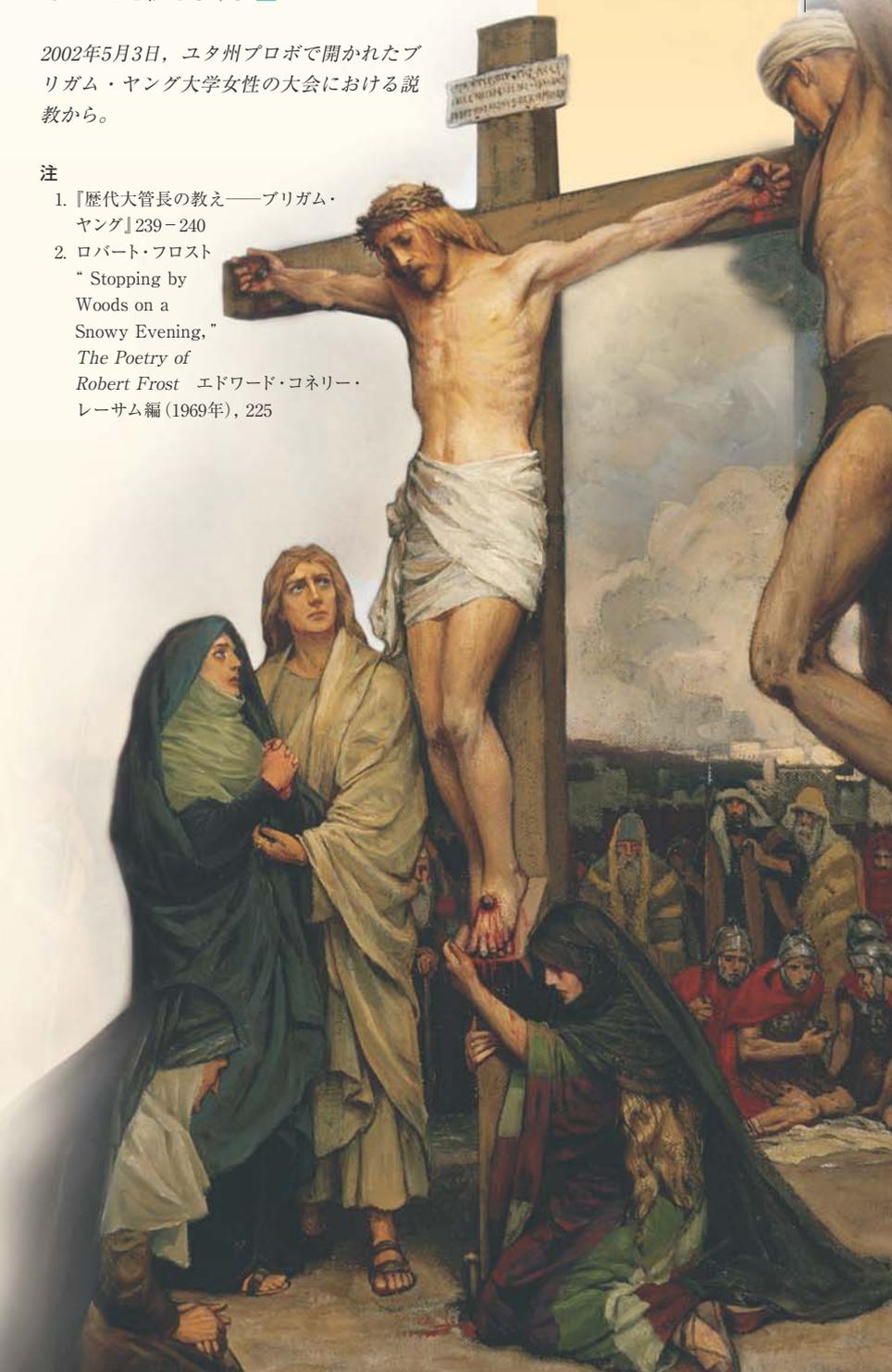
主は常にわたしたちのことを考えてくださっているのです。わたしは、使徒の一人として、そのことを証します。■

2002年5月3日、ユタ州プロボで開かれたブリガム・ヤング大学女性の大会における説教から。

注

1. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』239-240
2. ロバート・フロスト
“Stopping by
Woods on a
Snowy Evening,”
The Poetry of
Robert Frost エドワード・コネリー・
レーサム編(1969年), 225

キリストは、
その深い愛を、
最後の苦しみの
間でさえも示されました。
御自分の背負われた
苦悶よりも
はるかに小さい苦しみを
受けている人々に
慰めをお与えに
なりました。







霊的に 神から生まれる

ヨーロッパ東地域
地域幹部七十人
アレクサンダー・N・マンゾウス

何年か前の寒い冬の日のことです。わたしはウクライナのドニプロベトロフシクにある支部を訪問しました。その日は断食安息日で、わたしたちは暖房があまり効かない借家あかしに集っていましたが、述べられた証による喜びで心は温まっていました。

とりわけ、ある姉妹の証が印象に残っています。そのときの靈感を受けた彼女の顔を今でも覚えています。その姉妹はひとり親で、1歳の子供と一緒に勤務先の工場の寮に住んでいました。暮らしは決して余裕のあるものではありません。賃金は低く、支払いも不定期でした。絶望の中、次第に神への希望を抱くようになった彼女は福音へと導かれました。

彼女がバプテスマを受けて間もないころの

**多くの困難に直面しながらも
あるひとり親の姉妹は靈感あふれる証を述べた。
バプテスマを受け、イエス・キリストへの信仰を
持つことで人生が変わり、自分の小さな家族が
将来穏やかで幸福な生活を送れるという
確信を抱くようになった、と語ったのである。**

ことです。自分と子供のために食事を準備していると、同じ寮に住む若い女性がやって来てこのように言いました。「あなたにとっても状況が大変なのは知っているわ。わたしと同じようにひとり親だし、賃金も安い。家があるわけでもない。自分や子供の明るい将来なんて期待できるわけがない。あなたはわたしと同じように、暗い生活を送っているはずよね。わたしと同じように、子供のことや、先の見えない未来のことを不安に思っているはずだわ。それなのに、どうしていつも笑顔で目を輝かせているの？ どうしてうれしそうな顔をしていられるの？」

そう質問されたこの姉妹は、バプテスマを受けてから自分に起きた変化について改めて考えました。イエス・キリストに対する信仰を得てから、それまで抱いていた恐れが消えました。御父のもとに帰る道が開かれたことで、希望を持つことができるようになりました。バプテスマを受けたことで、将来穏やかで幸福な生活を送れるという確信を抱くようになり、聖霊たまものの賜物を授かったことで、堅固な証を受けました。次第に世の偽りの価値観ではなく、福音というさらに高い価値観を抱くようになりました。そしてこのさらに高い価値観が、思いと行い両方の確かな土台となったのです。このような変化が、まさに物事に対する自分の見方を変えていったという



**モーサヤ第27章に
書かれている
アルマの啓示により、
永遠の命を得るためには、霊的に
神から生まれなくては
ならないことが
分かります。**



わ たしは訪問者に尋ねました。「何かお気に召さないことがありましたか？」彼は、自分は貧しいので、裕福に見える教会員の中には自分の居場所がないと説明しました。彼は「貧しい人は喜びのない生活の中で、そんなに幸せそうで満足げな顔なんてできません」と言いました。わたしは彼にまた来るように言い、福音には求めているものがあることを約束しました。

ことに彼女は気づきました。待ち望んでいた喜びと平安を手に入れたのです。

霊的に生まれ変わる

わたしはあの分かりやすく謙虚な証をよく思い出します。その証は御霊と真理の喜びに満ちたものでした。その証によってわたしは考えるようになりました。悔い改め、バプテスマの水に入ったわたしたちは、自分の歩み始めた道が御父の計画によって定められ、救い主の偉大な犠牲によって通行が可能となったということを忘れてしまうことがあるのではないのでしょうか。この選択は自分だけでなく、次世代にとっても出発点です。このようにして再生が起こり、この世でのわたしたちの存在に変化が生じ、永遠の命への道が開かれるのです。

主はアルマにこうお教えになりました。全

人類は「再び生まれなければならない……。まことに、人は神から生まれ、肉欲にふける墮落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神の息子や娘にならなければならない。このようにして、彼らは新たな者となる。このようにならないかぎり、決して神の王国を受け継ぐことはできない。」(モーサヤ 27:25-26)

もう悪いことは行わず、むしろ神のようになる努力をするほど主の御霊を感じ、心の中に大きな変化を感じれば、再び生まれる、すなわち霊的に神から生まれるという意味が分かるようになります。この原則を深く理解するようになればなるほど、わたしたちはアルマの次の警告をより注意深く心に留めるようになるでしょう。「このような状態にならないかぎり、必ず捨てられます。わたしは一度捨てられそうになったので、このことが分か

ります。」(モーサヤ27:27)

大切なのは、聖霊の影響以上に、肉欲、欲望、欲求、感情の影響を受ける危険性があることに一人一人が気づかなくてはならないということです。なぜなら、「もし自分の力を自慢し、神の勧告を無視して、自分の思いと肉の欲望が命じることに従うならば、彼は必ず落ちて、公正な神の報復を自分に招く」ことになるからです(教義と聖約3:4)。

恐れてはならない

世の中の多くの人がそうであるように、わたしたちは人生の意味、人の行く末や将来、また子供の将来について思い巡らします。そして自分たちを悩ませている問題に対する答えを探し求めます。そのようなとき、わたしたちに対する主の計画を知れば、どれほど大きな喜びとなることでしょうか。わたしたちは主の名を引き受け、主の戒めに従い、聖霊の力と影響力に注意を払うことにより、霊的に生まれ変わることができるのです(モーサヤ5:7参照)。

意外なことですが、人はこの世のものを追い求めると、主の福音の非常に分かりやすい部分をわざわざ複雑にしてしまうことがあります。ですから主はわたしたちに、世に対して子供のように素直で、誠実で、単純な見方をするよう命じられました。主はこう語っておられます。「幼い子供たちよ、恐れてはならない。あなたがたはわたしのものである[る。]」(教義と聖約50:41) 救い主は、わたしたちが光の子となれるように、福音の光を信じるよう求めておられます(ヨハネ12:36参照)。モルモンはこう教えています。「もしあなたがたが善いものをことごとく手にして、それを非難しなければ、あなたがたは必ずキリストの子となる。」(モロナイ7:19) 子供のようにすることで、生活に安らぎ、心に平安がもたらされます。

豊かな喜び

最近聖餐会で、一人の男性が礼拝堂に入って来て、入り口付近に腰かけました。身なりは整っておらず、顔には無精ひげが生えていました。居心地悪そうな様子から、この支部に来たのは初めてだろうと察しました。そして集会の

内容よりも周りの設備に関心があるように見えました。その日の話はとりわけ霊を高めるような内容だったので、関心を示してくれなかったことを残念に思いました。集会が終わる前、席を立ったこの男性を追ってわたしも外に出ました。少しあいさつをしてからこう尋ねてみました。「何かお気に召さないことがありましたか?」

この男性は少し間を置いてこう答えました。「わたしはとても貧乏です。そのためにいろいろと苦勞してきました。わたしは慰めと思いやりを求めています。この教会にはすばらしい人たちが集まっていると聞いて、立ち寄ってみようと思いました。でもこの教会は金持ちのための教会のようですね。ここでは求めているものを得られないでしょう。」

わたしは彼の答えに驚きました。この支部の人々は裕福とは程遠く、中には長い間貧困に苦しんでいる人もいます。わたしは尋ねました。「どうしてそう思ったのですか?」

最初、わたしは彼の答えにがっかりしました。「皆さんきちんとした身なりをしています。物静かで、子供たちはずっと笑顔を見せています。貧しい人は喜びのない生活の中で、そんなに幸せそうで満ちた顔なんてできません。」わたしは彼にまた来るように言い、回復された福音を勉強すれば求めているものを見つけることができると約束しました。

わたしは支部の会員について考えてみました。そして、その男性の言ったとおりであることに気づきました。わたしたちは確かに貧しくはありません。それは自分たちが貧しいと感じていないからです。そのため日常で困ることがあっても、平安でいられるのです。わたしたちにはイエス・キリストへの信仰、知識、家族、教会があるので、まことに豊かな民です。主は霊的に生まれ変わるという永遠の富と来世で主とともに住むという約束を祝福として授けてくださいました。「わたしの目はあなたがたのうえにある。天と地はわたしの手の内にある。永遠の富はわたしのものであり、わたしが与えるものである。」(教義と聖約67:2) ■



主はアルマにこうお教えになりました。全人類は「再び生まれなければならない……。まことに、人は神から生まれ、肉欲にふける墮落した状態から義の状態に変わって、神に續われ、神の息子や娘にならなければならない。」

クリスタメイの勇気

クリスティーン・ズィンベル

長 女のクリスタメイは筋萎縮症きんいしゆくしょうに苦しんでいます。数年間は歩行器や車いすなしに動き回れたのですが、動きがぎこちなく、よく転びました。

8歳のとき、娘は聖餐会せいさんかいの子供の発表で割り当てをもらいました。クリスタメイは人前で何かをするのが好きな子ですから、話の割り当てをととても喜びました。わたしは準備を手伝いながら、娘の言葉が非常に大切な意味を持つようになると強く感じたことを覚えています。イエス・キリストの犠牲は自分にとってどんな意味があるか話すのです。娘は練習を重ねました。「主はわたしをととても愛し、勇気ゆうきがおりになったので、悔い改めればわたしの罪は赦ゆるされます。そして、いつかわたしが復活するとき、健康で強い体を頂けます。」

発表の日、わたしはハラハラしながら、クリスタメイが立ち上がって説教壇に進むのを見ていました。娘は顔いっぱいに笑みを浮かべ、目を輝かせていました。すると、説教壇に向かう途中で前にばったり転んでしまったのです。わたしは彼女が自力で立ち上がれないことを知っていましたが、心優しい初等協会の教師が素早く助けに駆け寄っ

てくれました。その教師がクリスタメイを肩に寄りかからせて慰めるのを見ながら、優しい腕が娘を抱き抱えてくれていることに感謝しまし

た。わたしは思わず彼女を連れ戻しに行こうとしましたが、御霊みたまが娘の伝えるべきメッセージの大切さを思い出させてくれました。それに、立ち上がって自分の役割を果たさなかったら、娘はきっと後で悔やむことになると知っていました。

涙でいっぱいの娘の目と礼拝堂の



後ろにいるわたしの目が合ったとき、娘はとても当惑してはいても、傷ついてはいないことが分かりました。その瞬間、犠牲の使命を果たされる御子を見守られた天の御父の苦しみを、ほんのわずかでも理解できたような気がしました。わたしは涙をこらえ、「お話をしなさい、大丈夫だから」と口の動きで娘に伝えました。

娘は信じられないほどの勇気をもってマイクの前に立ち、はっきりした声で話し始めました。「いつか強い体を頂けるので救い主に感謝します」という娘の言葉に、ほぼ全員が目が涙でぬれていました。わたしはこの経験を通し、健全者には達成できない使命があることを知りました。あの日娘が伝えたメッセージは、ほかの人では同じ影響を与えることができなかつたからです。

この教訓は、特にわたしにとって貴重なものでした。なぜなら、クリスタメイには同じ病気の妹がいるばかりでなく、わたし自身も軽度の筋萎縮症を抱えているからです。あの日、わたしたちはクリスタメイの勇気のおかげで、イエス・キリストの贖い^{あがな}と復活という究極の奇跡について学びました。■

クリスティーン・ズインベルは、カリフォルニア州ターロックステーキ、セレス第2ワードの会員です。

説 教壇に行く途中、クリスタメイは前にぼったり転んでしまいました。心優しい初等協会の教師が素早く助けてくれました。

経験したことのない喜び

ダニエル・S・ヒダルゴ

しばらく前、わたしは花屋の店主と店頭に並んでいる鉢植えについて話し始め、いろいろな育成方法について意見を交換したことがありました。その後、仕事で近くに行く度に、店に寄って店主と互いの仕事について話をするようになりました。そのうち少しずつイエス・キリストの福音について話し始めました。

わたしはまず神について語り、神に対する自分の気持ちを伝えました。花屋の店主であるディエゴは、イエス・キリストを信じていないと言いました。ただ、すべてを創造する力を持つ者の存在は信じていました。これには驚きました。それでわたしは、自分にとって非常に大切なものであるモルモン書をプレゼントしたいと伝えました。また、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師を紹介したいと付け加えました。

ディエゴは同意しました。わたしが宣教師と約束を取り、後に宣教師がディエゴの店を訪問しました。福音の話^{あがな}を3回聞いた後で、ディエゴは宣教師を自宅に招くようになりました。

このころ、わたしは仕事の担当地域が変わっていたのですが、ある日ディエゴを教えている宣教師たちにぼったり出くわしました。わたしはディエゴについて尋ね、彼の進歩状況を確認してみました。宣教師の話では、ディエゴにはバプテスマの予定があるが、まだはっきりした日は分からないということでした。次の週、娘のカーラを除いてディエゴの

家族がバプテスマを受けたことを知りました。彼らの決断を聞いてうれしく思いました。ディエゴとの出会いが実を結んだのです。

2週間後のステーキの集会で、わたしはバプテスマを受けたばかりで教会に熱心なディエゴ・パエスという改宗者のことを耳にしました。集会后、伝道部長が日曜日にディエゴの確認の儀式をすることを教えてくれました。

次の日曜日、ディエゴのワードに出かけて行き、家族と一緒に座っているディエゴを見つけました。隣に腰かけると、ディエゴはわたしにほほえみかけて言いました。「ダニエル、ありがとう。」

長老定員会会長から教会員としての確認の儀式を受けるためにディエゴがいすに腰かけると、わたしも輪に加わるよう招かれました。輪に入り、長老定員会会長が「聖霊を受けなさい」と言ったとき、わたし自身も御霊の影響を感じることができました。心臓の鼓動が激しくなり、圧倒されんばかりの平安に包み込まれました。

経験したことのない喜びでした。ディエゴが立ち上がると、わたしは彼と抱き合いました。目からは涙があふれました。教義と聖約第50章22節に「それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜びのである」と書かれてあるとおり、わたしは自分が強められたのを感じました。

ディエゴの娘カーラは、翌週父親



の手でバプテスマを受けました。パエス家族は進歩を続けています。家族のバプテスマのときに3歳だったミラグロスも、両親と一緒にひざまずき、家族を祝福してくださるよう天の御父に祈っています。ディエゴと妻のガブリエラは福音を人々に伝えるために努力しています。

世界中には、パエス家族のような人々がたくさんいるはずですが、だれかが真理の光をもたらしてくれるのを待っているのです。イエス・キリストの福音に対するわたしたちの思いを伝え、共有できることは言葉に尽くせないほどの喜びです。■

ダニエル・S・ヒダルゴは、アルゼンチン・ゴドイクルスステーク、トラピチェワードの会員です。

足りなかったパン

エベリン・B・シーザー

1989年9月の第1日曜日のことを今も覚えています。その日は嵐^{あらし}でした。当時わたしは、フィリピン・カディスステーク、カディスワードの会員でした。空は大きな黒雲に覆われ、雨が激しく降っていました。

午前9時、^{せいさん}聖餐会が時間どおりに始まりました。礼拝堂を見回すと、席はほとんど空でした。実のところ、出席者はわずか5人しかいなかったのです。会員たちにとって雨の中を教会に集うのは難しいことでした。遠くに住む会員たちにとってはなおさらです。

開会の賛美歌を歌っている間、徐々に人が増えてきました。新しいワード会員の名前が発表されているときには、もっと多くの人が入って

多くの教会員たちが詰めかけ始めました。聖餐のテーブルに着いている二人の兄弟たちには、どんなふうにも割いてもパンが足りないことが明らかでした。

来ました。

聖餐の賛美歌を歌い始めたとき、もう一度辺りを見回しました。すると、いつもでは考えられない100人ほどの出席者がいるではありませんか。聖餐のパンを割いている二人の兄弟に目をやると、何か問題があるようでした。心配そうな表情をしていたのです。賛美歌が終わり、一人がパンを祝福するためにひざまずきました。

しかし驚いたことに、祈りが終わっても聖餐のテーブルにいる二人は

すぐに動こうとしませんでした。しばらくの間、二人は頭を垂れたままだったのです。それから彼らはアロン神権者たちに聖餐のトレイを渡し始めました。トレイを受け取った若者たちの表情も真剣そのものでした。何があったのかは分かりませんが、わたしも目を閉じて心の中で祈りをささげました。

聖餐のパスが終わると、監督が会員に証を述べる時間を与えました。最初に説教壇に進んだのは聖餐の祝福をした神権者の一人でした。彼は、神がその子供たちすべてに寄せる大いなる愛について語りました。聞きながら、わたしは胸の内が燃えるのを感じていました。神が生きてわたしたちを愛しておられるという証があることに、大きな喜びと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

次に立ったのは、一緒に聖餐を祝福したもう一人の兄弟でした。感動に震える声で、今日わたしたちは奇跡を目撃したと言いました。そして、その朝、監督が聖餐式のために用意していたのは小さなロールパン2個だけだったと説明し始めたのです。雨がひどかったため、監督はその日の出席者がいつもより少ないだろうと思ったのかもしれない。

しかし、多くの教会員が詰めかけ始めました。二人の兄弟たちには、どんなふうにも割いてもパンが足りないことが明らかでした。そこで聖餐の祈りの後に再び祈り、100人以上の出席者がいるのにパンが40片しかないことと主に説明して、助けを願い求めたのです。

その後、パンは人々に配られました。二人の兄弟たちは、希望する人が皆聖餐にあずかれるよう一人一人を注意深く見守りました。パンは十

分にありました。

この出来事を知ったとき、皆口をつぐみ、しばらく辺りは静まり返っていました。御霊が強く感じられ、だれも沈黙を破ろうと思いませんでした。皆、目に涙をためていました。

監督の声がようやく沈黙を破りました。監督は立ち上がり、神権を頂いていることがどれほど素晴らしいかを話しました。そして、神に不可能なことはないと語りました。天の御父はその子供たちを祝福するためには不思議な方法を取られます。信仰をもって祈るならば、御父はその祈りを聞き、こたえてくださるのです。

■
エベリン・B・シーザーは、フィリピン・サガイ地方部、ロベスハエナ支部の会員です。

クーツの良いサマリヤ人

アラン・P・キングストン

わたしと妻は、イギリスのポーツマスで隠居生活を送る夫婦です。結婚して48年になり、英国国教会に所属しています。カナダへの思い出深い旅行に行くまで、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員に対する印象は、押しが強く宗教に熱心すぎるというものでした。ほかの宗教の人を手当たり次第に改宗させようとしているかのように思えたのです。しかし、カナダで吹雪に遭遇したときから、それが変わり始めました。

わたしたちは、カナダのバンフからイエローストーン国立公園、ロッキーマウンテンにかけて観光する、年配のイギリス人を中心とした団体旅行に

参加していました。あいにく天候は優れませんでした。カナダのレスブリッジに泊まったとき、朝目を覚ますと雪が積もっていました。夜のうちに降ったのです。その朝、アメリカ国境に向かって旅を続けていると、雨は雪に変わり、国境に着いた時点ではアメリカ側の道路が通行止めになっていました。元来た道に戻るしかありませんでした。そして8キロほど戻ると、今度はスリップしたトレーラーが鋭角に折れ曲がって停車し、道路を遮っていました。わたしたちは前にも後ろにも進むことができませんでした。

バスに取り残されたわたしたちは、クイズをしたり、歌を歌ったりして楽しみながら待つことにしました。遠からず助けが来るだろうし、それまでバスの中にいれば安全だと思ったからです。そして、5時間が過ぎたころにようやく助けが来ました。

スノーモビルに乗ったカナダ騎馬警察隊に発見されると、バスは除雪にきた消防車のおかげで旋回することができました。疲れ切っておなかをすかせたわたしたちは、いちばん近い集落に向かいました。そこで消防士の何人かが集うという教会に到着したのです。そこは、カナダのアルバータ州クーツにある末日聖徒イエス・キリスト教会の集会所でした。

わたしたちが通う英国国教会は150年前に建てられたもので、小さな共有ホールとごく限られた施設しかありません。そのため、教会の信徒たちが雪で遭難した40人もの見知らぬ人を世話するなど想像もできませんでした。しかし、バスが到着して1時間もたたないうちに、ワードの女性や青少年たちがベークドポテトやチリビーンズをごちそうしてくれました。

特に感銘を受けたのは、奉仕者たちが自らも緊急の問題を抱えていると知ったときです。ある若い母親は自宅が停電しているにもかかわらず、小さな子供たちを親切な友人に預け、年長の子供たちと一緒に奉仕に駆けつけていました。副監督は建物を案内し、わたしたちの世話が行き届いているのを確認してから、夜勤に出かけました。

床に就く前、クーツワードの青少年たちが、それまで練習してきた劇を即興で演じてくれました。そして

最後に、セントラルヒーティングの設定温度を上げ、わたしたちが快適に眠れるようにくれました。

翌日、道路は十分に旅を続けられる状態にまで復旧しました。ワードの会員たちが朝食を用意してくれた後、わたしたちは再び楽しい旅行に出発しました。しかし、わたしたちの心には、末日聖徒がしてくれた温かいもてなしがいつまでも残りました。彼らは見ず知らずの者のために教会を開放し、食べ物と寝具を提供し、そして何よりも友情の手を差し

伸べてくれたのです。

末日聖徒は幾分押しつけがましい人たちだと思い込んでいました。けれども実際に見たのは、毎日の生活の中で信仰を実践している、親切で思いやりにあふれた人たちでした。イギリスに戻ったわたしたちは、今回の旅を思い出しながら、良いサマリア人である末日聖徒の友人たちを神に感謝しています。■

アラン・P・キングストンは、イギリスのポーツマスに住んでいます。

カ ナダ騎馬警察隊に
発見され、わたしたちは
消防車が除雪した後を
通っていちばん近い集落に
行くことができました。



悔い改めを通して 主の愛を感じる

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン——「わたしたちも生活という織物の中に模様を織り込んでいます。そして、その模様は最終的な形となって、やがてわたしたちの目の前に現れてくるのです。この世におけるわたしたちの生活は、日々の行いととも、主というデザイナーのプランに従って、複雑な美しさを備えたものに織られていきます。間違っただけをした場合、……悔い改めを通して生活をやり直し、自分の人格の中に過って織り込んだ糸を取り除き、主が望んでおられるもっと美しい糸に置き換えていかなければなりません。」（「備えの時」『聖徒の道』1998年7月号、17参照）

大管長 スペンサー・W・キンボール（1895-1985年）——「悔い改めは、罪の言い訳や正当化をやめて、素直に自らの行いをあるがままに受け入れられるようになって初めてもたらされるのです。……この道を選び、生活を改善しようとする人は、悔い改めは大変なことだと最初は思うでしょう。しかし、悔い改めの結ぶ実を味わううちに、この道こそほんとうに自分が望んでいたものであることが分かってくるのです。……幾百万もの聖徒たちが悔い改めの道に進むことによって平安を見いだしています。また、悔い改

めの福音をガイドとして神の言葉に従って歩み、個人の進歩を遂げることによって、麗しく満ち足りた豊かな人生を送っています。」（「悔い改めの福音」『聖徒の道』1983年3月号、3-4、6）

中央初等協会第一副会長 シドニー・S・レイノルズ——

「わたしたちが行っていることの中で、わたしたちを主の御霊から離れさせるようなことは何であれ悔い改めなければなりません。そして、主がわたしたちの罪を赦し、恵みによって清めてくださるよう、主の戒めを守り、主の子供たちを愛することによって神への愛を示さなければなりません。……わたしたちには救い主が与えられています。救い主は、わたしたちが進んで悔い改めたいと望むすべての罪、過ち、不完全さに対する代価を支払ってくださいました。」（“Be Ye Therefore Perfect” *The Rock of Our Redeemer: Talks from the 2002 BYU Women's Conference* [2003年], 153-155）

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット——「イエス・キリストは、主の教えに従うすべての人のために、代価を支払って、正義の要求を満たされました。したがって、完全な赦しが与えられ、罪の悲惨な影響力は、もはや人の生活に存在する必要はないのです。確かに、キリストの贖罪の意味をほんとうに理解していれば、そのような力は存在しません。……

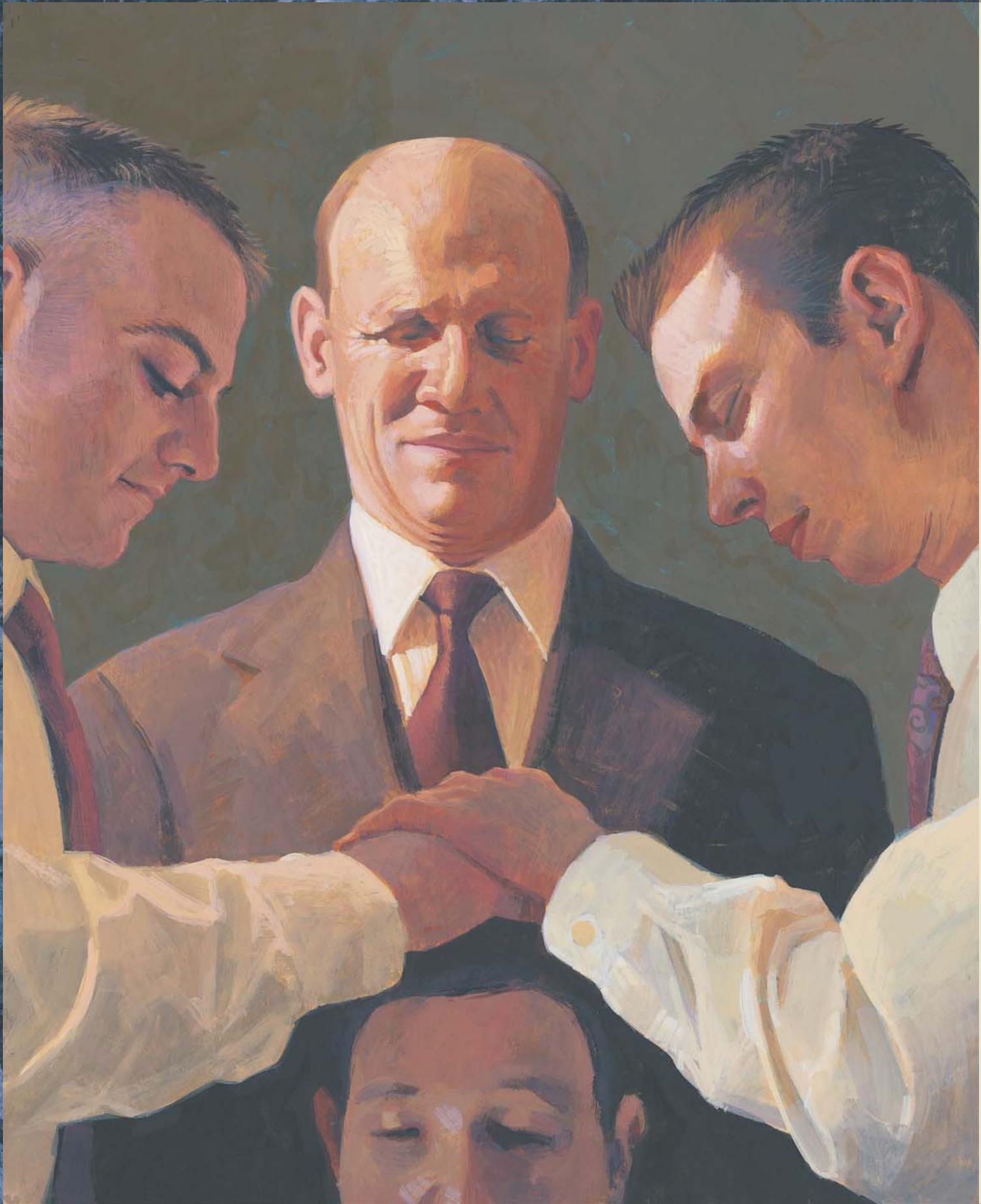


過去の過ちの記憶が心に入り込んできたなら、自分の思いを贖い主と赦しの奇跡に向け、主を通してすべてが一新されることを思い出してください。憂うつな思いや苦しみは、平安と喜びに変わり、主の愛への感謝に変わるでしょう。」（「平安と喜びに至る道」『リアホナ』2001年1月号、33）

モロナイ8:26——「罪の赦しは柔和で心のへりくだった状態を生じ、柔和で心のへりくだった状態であれば聖霊の訪れがある。この慰め主は、希望と完全な愛を人の心に満たされる。そしてこの愛は、熱心に祈ることによって、すべての聖徒が神とともに住む終わりの日が来るまで続くのである。」

● 悔い改めがもたらす祝福にはどのようなものがあるのでしょうか。

● 悔い改めることは、救い主の愛を感じ、主の贖罪に対する感謝の念を抱くうえでどのような助けになるのでしょうか。■



神権の 奇跡

アロン神権は175年前に回復されました。管理監督会はこの特別な出来事を記念する教会機関誌の取材に応じて、アロン神権およびこの神権を通して若人と全教会員の生活にもたらされる祝福について語ってくれました。

アロン神権は、1829年5月15日に回復されて以来、全世界に広まっていますが、そのことについてどう思いますか。

管理監督、H・デビッド・バートン——神権が回復されたときにその場にいたとしたら、喜びで胸がいっぱいになったと思います。サスケハナ川の対岸から、茂みのそばに座って、バプテスマのヨハネにより預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリが聖任される様子を目の当たりにしたとしたら、ほんとうに胸を躍らせたと思います(教義と聖約13章参照)。

それは確かに胸躍る出来事だったことでしょう。しかし、その出来事に端を発する教会の歴



管理監督会 ——
管理監督の
H・デビッド・
バートン長老(中央)と
二人の副監督、
リチャード・C・
エッジリー長老(左)、
キース・B・
マクマリン長老。

史も奇跡にほかならないということ、わたしは理解できるようになりました。第1に、教会を組織するために必要な神権が成人の兄弟に与えられました。やがて、神権は若人にも与えられ、今では、ふさわしい若人であればだれでもアロン神権を受ける機会が与えられています。

神権、特にアロン神権によってもたらされるほんとうの祝福は、非常に多くの若い男性が、専任宣教師となり、神殿に参入し、家族を養うために備えを受けていることです。過去175年の間に起こった出来事について思いをはせると胸の高まりを覚えます。

この神権時代にアロン神権によって成し遂げられた偉大な業を挙げるとすれば、どのようなものがありますか。

第二副監督、キース・B・マクマリン——アロン神権に付随する通常の務めこそ偉大な業と言えます。なぜなら、教会員の生活に靈感と充実感を与えてくれるからです。アロン神権は「天使の働きと備えの福音の鍵を持つものであり、」この福音は、悔い改めとバプテスマ……の福音」です(教義と聖約84:26-27)。

アロン神権は外形上の儀式を執り行います。

エッジリー副監督は、
キャンプファイヤーの
周りに座って
語り合ったこと、
そのときに執事定員会
アドバイザー補佐の
兄弟が神権の力
について証したことを
覚えています。

その務めの中には、バプテスマ、^{せいさん}聖餐、困っている人々の世話があります。若い神権者は、死者が福音の祝福を受けられるように、死者のための身代わりのバプテスマを受けます。聖餐を配り、すべての会員に福音の聖約の中で御^{みたま}霊を感じる機会を提供します。また、教会にきた会員にあいさつをし、メルキゼデク神権を持つ同僚とともにホームティーチングを行います。

世界には多くの異なる国々がありますが、アロン神権の働きも国によって異なりますか。

バートン監督——執事でも教師でも祭司でも同じですが、ソルトレーク盆地に住んでいてもフィリピンに住んでいてもアロン神権の働きに違いはありません。与えられている権能と基本的な責任はまったく同じです。

マクマリン第二副監督——どこに住んでいても、与えられている力は同じです。たとえ、あるワードまたは支部全体にアロン神権者がたった一人しかいないとしても、そのアロン神権者は自分に与えられている義務を果たすことができます。

アロン神権者が断食献金を集め、聖餐を配り、その他の義務を果たすように求められるのはなぜでしょうか。

第一副監督、リチャード・C・エッジリー——主は若い男性がこれらの義務を果たすようにと望んでおられます。この神権は主が若人に寄せておられる途方もなく大きな信頼の象徴なのです。

マクマリン第二副監督——聖餐のトレイを持った手を会員に差し出すアロン神権者は、ただ単に聖餐を配っているわけではありません。会員を神聖な^{あがな}贖いの象徴である聖餐にあずからせ、その霊を天へと引き上げているのです。また、断食献金用の封筒を手にしたアロン神権者は、ただ単に断食献金を集めているわけではありません。その行為はみもとへ来るように、また与えることによってほかの人々を助けるようにという救い主御自身の招きにはかならないのです。

神権は永遠です。神権は天の御父の子供た

ちに永遠の祝福を得させ、神権によってのみ可能な方法で、彼らの霊的成長を助けます。

アロン神権が「小神権」と呼ばれるのはなぜでしょうか。アロン神権が備えの福音の一部を成すということには、どのような意味があるのでしょうか(教義と聖約84:26;107:14,20参照)。

バートン監督——アロン神権が存在しないとしたらどうでしょうか。成長して青春時代に別れを告げ、19歳になった途端にメルキゼデク神権を受けて伝道に召されるとしたらどうでしょうか。宣教師はどう感じるでしょうか。どのような備えができていますでしょうか。

備えの福音という言葉は、若い男性がアロン神権の働きに関与しないとしたらどうなるかという角度で考えると、異なる意味を帯びてきます。教会の宣教師はアロン神権者としての経験があるからこそ、よりふさわしい宣教師になることができると、わたしは信じています。

エッジリー第一副監督——メルキゼデク神権を持ち、備えの神権によって備えられた数多くの専任宣教師について考えると深い感動を覚えます。アロン神権はメルキゼデク神権という最も神聖な召しの先駆けとなるものなのです。

わたしがこの教会のバプテスマを受けたとき、バプテスマを施してくれたのはわたしの父ではなく、ある祭司の兄弟でした。そしてわたし自身、祭司のとき、自分の妹にバプテスマを施すという特権にあずかりました。また、父親となって経験した最もすばらしい出来事は、祭司であった息子にその弟の教師への聖任をしてもらったことです。

教会の若いアロン神権者がこの神権に伴う霊的な力を理解するのはほんとうに大切なことだと思います。また、適切なときに、アロン神権を持つ祭司の兄弟が与えられた権能の範囲内で儀式に参加できるよう手配するのも良いことだと思います。

マクマリン第二副監督——アロン神権はメルキゼデク神権の指示の下に機能します。アロン神権はこの神権を持つ人々だけではなく、教会

に属するすべての人々にも、大神権によってもたらされる至高の祝福を受ける備えをさせます。救いの条件として、イエス・キリストに対する信仰、悔い改め、そしてバプテスマがあります。だれもが聖餐を受けなければなりません。だれもがこれらの儀式を必要としています。そして、これらの儀式が備えとなって、次の段階の儀式に進むことができるのです。

アロン神権者を定員会という形で組織するのはなぜでしょうか。

バートン監督——若い男性は執事になるとき、神権を受けるだけでなく、定員会の会員になります。定員会には途方もなく大きな力が秘められています。

わたしにはアロン神権者時代の楽しい思い出がたくさんあります。それは輝かしい時代でした。祭司だったころ、わたしの監督は口癖のように、祭司定員会の会員は皆、ワードで新しく祭司になる兄弟の聖任の儀式に参加すべきだと言っていました。恐らくそのときに初めて、わたしは真の意味で定員会とは何かを理解したように思います。自分たちが神聖な儀式に参加しているということに気づいたときには、ほんとうに御霊を感じました。

エッジリー第一副監督——わたしが属していたアロン神権定員会での経験は、ボーイスカウトの野外活動に関するものです。わたしたちは執事定員会アドバイザー補佐でもあったすばらしいスカウト隊長の兄弟とともにたき火の周りに座って語り合っていました。そのとき、教会活動に活発でない数人の少年たちがボルノグラフィーを見ていました。

スカウト隊長はスカウトの少年たちに話すのをやめ、その雑誌をちょっと貸してもらえないだろうかと言いました。彼はその雑誌を閉じると、自分がどれほど傷つき、当惑したか話しました。それから神権を尊ぶときにもたらされる神権の力について証をした後で、その雑誌を返しました。するとどうでしょう。その雑誌を受け取った若い男性は火の中にその雑誌を投げ捨てたのです。

あのスカウト隊長は、神権とは何かを御霊の力によってわ

たしたちに教えてくれたのです。定員会や礼拝堂ですばらしい教えをこれまでに幾度となく受けてきましたが、そのときの経験には今でも心を動かされます。

アロン神権者のなすべきことについて何かアドバイスがありますか。

マクマリン第二副監督——執事、教師、祭司の義務について書かれた教義と聖約第20章を読み、自問してください。「ここに記されたことをわたしはどのように応用すればよいだろう」と。

エッジリー第一副監督——主は神権を持つ人々に驚くべき約束を与えておられます。この約束は神権の誓詞と聖約と呼ばれ、その内容については教義と聖約第84章に記されています。

「だれでも忠実であって、わたしが語ったこれら二つの神権を得て、自分の召しを尊んで大なるものとする者は、御霊により聖められ……る。

これらの者は、モーセの息子たち、またアロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となり、神の教会となり、神の王国となり、神の選民となる。

主は言う。この神権を受けるすべての者は、わたしを受け入れるのである。

わたしの僕たちを受け入れる者は、わたしを受け入れるからである。

また、わたしを受け入れる者は、わたしの父を受け入れる。そして、わたしの父を受け入れる者は、わたしの父の王国を受けるのである。それゆえ、わたしの父が持つておられるすべてが、彼に与えられるであろう。

これは神権に伴う誓詞と聖約によってである。

それゆえ、神権を受ける者は皆、わたしの父のこの誓詞と聖約を受け入れるのである。わたしの父がこれを破られることはあり得ず、またこれが取り消されることもあり得ない。」(33-40節)

神権は執事、教師、あるいは祭司であること以上の意味があります。それは人に託された神の力です。忠実さにより、人は満ちみちる力を受けることができます。■



回復された 神権

世界に広がる神権の影響を、
神権者の証からうかがい知ることが
できます。そのような例を
以下に紹介しましょう。



18 29年5月15日、サスケハナ川の岸辺でバプテスマのヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れ、二人にアロン神権を授けました。しばらくして、新約の時代にイエス・キリストの使徒であったペテロ、ヤコブ、ヨハネの3人もジョセフとオリバーを訪れ、メルキゼデク神権を授けました。

それ以来175年の間、神の名によって行動するための力であり権能である神権は、世界中のふさわしい若い男性、成人男性に秩序正しく授けられてきました。それは、あらゆる場所に住む男性、女性、子供たちの生活を祝福する福音の神聖な儀式を執行する権能を彼らに与えるためでした。

アロン神権

アロン神権はモーセの兄であるアロンにちなんでその名が付けられました。この神権は、メルキゼデク神権の権能の下で機能します。アロン神権者は福音の特定の儀式を執行する

175年前の
1829年5月15日、
バプテスマのヨハネが
預言者
ジョセフ・スミスと
オリバー・カウドリに
アロン神権を
授けました。

権能を有し、人々が聖霊を受け、天の御父のもとに帰ってともに暮らす準備をするのを助けます。すべてのアロン神権者にとって最も重要な義務は「キリストのもとに来るようにすべての人を招く」ことにあります（教義と聖約20：59）。アロン神権は、この神権を持つ者がメルキゼデク神権を受けるにふさわしくなるよう助けとなります。アロン神権には、執事、教師、祭司、それに監督の4つの職があります。

執事。 ふさわしい若い男性は12歳になると執事への聖任を受けることができ、聖餐を配る、断食献金を集める、アッシャーとして働く、監督や支部長のメッセンジャーとして奉仕する、教会の施設保持を手伝うなどの神権の義務を果たすことができます。

「ぼくは聖餐を配るとき、人々のために御自身を犠牲にされたイエス・キリストについて考えます。主はぼくのことを覚えていてくださるので、ぼくも主のことを忘れません。」こう話してくれるのはガーナ・ケープコーストステーク、アブラワードのコーネリアス・ウィリアムズ(13歳)です。

集まった会員たちに聖餐という神聖なしるしを配るという救い主を代表する行為は、畏敬の念を起させる責任です。そのように考えることで敬虔な気持ちになります。同じアブラワードのベンハミン・オポク・ギーウ(12歳)は「パンはイエス・キリストの体を象徴し、水はキリスト



「若い男性には
多くの期待
をかけて
います。彼らには皆、
忠実で勤勉な神権者にな
ってほしいですね。」

ルーミンデ
呂明德，
監督，台湾

の血を象徴しています」と言っています。また、ケープコースト第2ワードのジェーコブ・アボウ・アクア(12歳)も、「聖餐を配る順番が回ってきたときは、使徒たちに聖餐を与えておられるイエスのことを思い浮かべます」と話してくれました。

救い主の犠牲のしるしを配る執事たちにとって、この儀式は個人的な意味を持ちます。メキシコ・グアダラハラ・レフォルマステーク、リベルタッドワードのホルヘ・ベンハミン・セルバンテス・グティエレス(13歳)はこう言います。「聖餐を頂くということは、聖約を新たに
して、罪を悔い改めることができるということです。」彼はまた、神権を持つのは家族にとって祝福であることも理解しています。「家庭の中に神権の祝福があるようお願いしている母は、神権を持つ息子たちがいることに感謝しています。それは母にはとても大切なことなんです」とホルヘは言います。

アロン神権者の多くは、アロン神権が奉仕の生涯を送るための準備であることを、はっきりと自覚しています。アルゼンチン・ブエノスアイレス・リニエルスステーク、フロレスタワードのヘラルド・エマヌエル・バグナティ(12歳)は言います。「ぼくはずっと、神権を受けるのが待ち遠しかったです。父や祖父に神権のことについて尋ねたり、二人が経験したことを聞いたりするのが楽しみでした。とうとうぼくが聖任される日が来たときは朝早く起き、主がぼくを信頼してくださることに感謝しました。そして、悪いと分かっていることを故意に行って主を失望させるようなことは決してしないと約束しました。父がぼくの頭に手を置いて執事に聖任してくれたとき、これで子供時代は終わり、大人になったんだと感じました。そのときのことはこれからも決して忘れないでしょう。」

教師。 ふさわしい若い男性は14歳で教師への聖任を受けることができます。執事の責任を引き続き果たしながら、聖餐の準備、ホームティーチャーとしての奉仕、ワード・支部の会員の世話、会員が福音に従って生活できるように助けるなど、新たな責任も加わります(教義と聖約20:53-59参照)。

スロベニア・リュブリャナ地方部、セリエ支部のルカ・ペアーニク(15歳)は「聖餐の手伝いができてすごくうれしいです」と言います。神権の責任について学ぶことに熱心なルカ

は、日曜日のどんな集会も休みたくないと言います。また、神権を尊ぶことと戒めを守ることの関係をよく理解していて、こう言います。「主がぼくのことを喜んでくださるよう、ふさわしい生活を送ろうと努めています。」

ジョシュア・アッドウル(15歳)はフィリピン・ケソンシティーステーク、バグバグワードで教師定員会会長をしています。「ぼくは、ほとんどだれよりも早く教会に着き、集会が始まるまでに聖餐の準備ができてるようにしています。主がぼくを信頼してくださって、主の業のお手伝いをさせてくださるのだと思うと、誇らしい気持ちになります。」ジョシュアは聖句を引用して、この責任が大きな意味を持つ理由を説明しています。「主はこうおっしゃいました。『その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のため



アレクサンダー・マセンコフ(右)、祭司、ロシア

におののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。』(教義と聖約19:18) イエス・キリストがわたしたちのためにしてくださったのと同じことをできる人などいません。ふさわしい状態で聖餐を頂くとき、わたしたちは主にもっと近づくことができます。」

ホームティーチングをする機会についてジョシュアはこう言います。「人々を祝福するもう一つの方法です。毎月ぼくたちは、割り当てを受けた家族に大管長会からのメッセージを伝えています。そのメッセージは、彼らが日ごろ直面する試練に立ち向かう力となります。訪問することで、彼らと親しくなれます。ぼくたちは彼らの様子を聞き、心配していることは何か、何かぼくたちで力になれることはないか、あるいは監督に伝えてほしいことはないか尋ねます。彼らが愛されていて、受け入れられていると感じるように助けるのです。家族の中に青少年がいる場合は、ミューチャルやそのほかの活動に招待します。」

祭司。 ふさわしい若い男性は16歳で祭司への聖任を受けることができます。執事と教師の義務を引き続き果たしながら、さらに、バプテスマを施す、聖餐の祝福をする、ほかの祭



司、教師、執事を聖任するという義務を果たします(教義と聖約20:46-51参照)。

ロシア・サンクトペテルブルグ地方部、ネブスキー支部のアレクサンダー・マセンコフ(17歳)が初めて聖餐の祝福をしたときは緊張しました。そのときのことを思い出して彼はこう言っています。「わたしはその準備に1週間全部を費やしました。そして初めて聖餐を祝福したとき、御霊を感じました。また一度、父と二人で目が不自由なうえに体の一部がまひしている兄弟のところ^{みたま}に聖餐を届ける割り当てを受けたことがあります。集会所以外の所で聖餐を祝福したのは、それが初めてでした。そのときわたしは、イエス・キリストの僕として、また証人として、キリストがおられたらなさるはずのことを行う責任を自分は担っているのだと感じました。」

スイス・ベルンステーク、プラッテルンワードのヨエル・バーデル(16歳)は、「霊的な備えができたとき」御霊を感じると話してくれました。「1週間、自分はほんとうは何者で、何をすべきかをよく考えれば、もっと楽に戒めを守ることができます。また、どんなときにも必ず良い言葉を使って良い模範となるということも、容易

にできるようになります。」ヨエルは神権定員会の会員であるという機会に感謝して、次のように言っています。「定員会で一緒に活動すると、人とうまくつきあうことについて、また、集会を計画、運営する方法について、たくさん学ぶことができます。神権に関していちばん大切なことは、人に仕えること、そして、神権を通して祝福を受けることです。」ヨエルは当時祭司だった自分の兄からバプテスマを受けました。その後ヨエルが祭司に聖任される^{しもべ}とき、すでに祭司となっていた友人に聖任の手伝いを頼みました。

スイス・チューリッヒステーク、シュバメンディングワードの会員であるダビド・ビクテルマン(17歳)は、神権の奉仕を受ける立場になることがどのようなことであるかを知っています。こう語ります。「わたしが病気で痛みがひどかったときに、父が祝福をしてくれました。すると、痛みがすぐに引いたのです。父のようにわたしも神権を行使して祝福を授けられる日が来るのが待ち遠しいです。」その日を待ちわびている今、彼は自分が持っている神権の権能を使って、喜んで奉仕しています。「わた

「**と**うとうぼくが聖任される日が来たときは朝早く起き、主がぼくを信頼してくださることに感謝しました。そして、悪いと分かっていることを故意に行って主を失望させるようなことは決してしないと約束しました。」

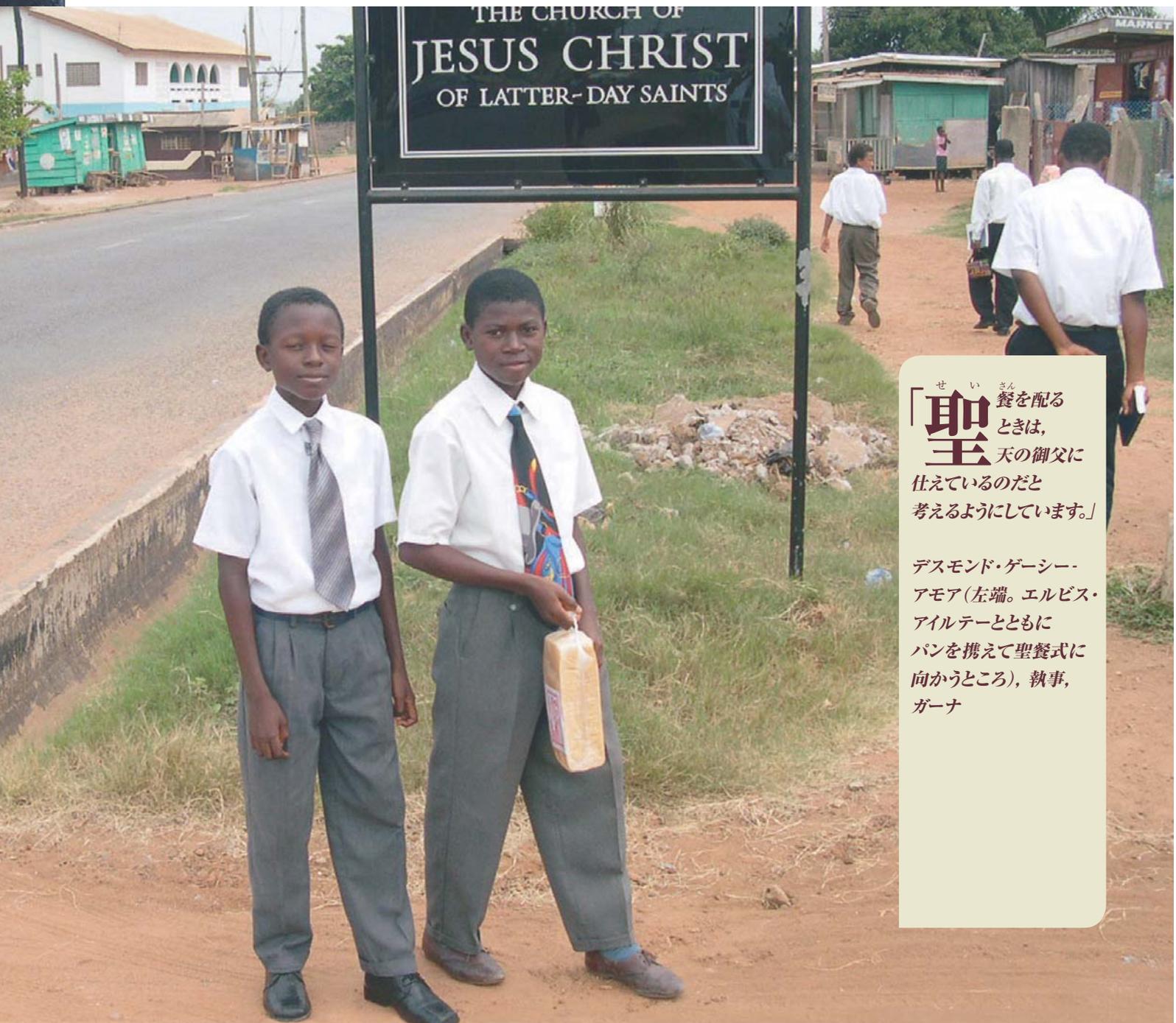
ヘラルド・エマヌエル・バグナティ(右端。中央はワードの若い男性会長のノルベルト・オルノス)執事、アルゼンチン

しは弟が執事に聖任されたときに手伝うことができました。ほかの人に神権を授ける儀式に参加できるのは、すばらしいことです。」

監督。各ワードにおいて一人の大祭司が、アロン神権の職の一つである監督に聖任され、任命されます。監督は自分の所属するワードでアロン神権を管理し、祭司定員会の会長を務めます。監督はまた貧しい人たちの世話をするに当たって指示を与え、その他、実務的な事柄を取り仕切ります。ワード全

体を管理する権能を持った管理大祭司である監督は、イスラエルの判士として仕え、神殿推薦状や神権の聖任、その他の目的のために面接を行います。

台湾台北ステーク、内湖ワードの監督を務める呂明德(38歳)は「わたしは謙遜な僕とならなければなりません」と話します。「そうすれば、救い主がお仕えになったように、わたしも人に仕えられるようになるからです。神権は不義な支配のためでなく、人を祝福するために使われるべ



「**聖** 餐を配るときは、**王** 天の御父に仕えているのだと考えるようにしています。」

デズモンド・ゲーシー・アモア(左端。エルビス・アイルテールとともにパンを携えて聖餐式に向かうところ)、執事、ガーナ

きものです。個人に栄光を帰すためではなく、神をたたえるためにあるのです。」

ワードのアロン神権の会長として呂監督は次のように話しています。「若い男性には多くの期待をかけています。彼らには皆、忠実で勤勉な神権者になってほしいですね。それには時間がかかりますし、たくさんの忍耐と愛も必要です。神権者として成長する若い男性には、セミナーに出席する、伝道に出る、神殿で結婚するという、踏まなければならない大切な段階が幾つかあると思います。」

監督の仕事には、ワードの会員に助言と勧告を与えるという責任が大きな割合を占めています。引き続き呂監督の言葉を聞きましょう。「面接は会員が神の愛を感じて、勧告を受ける機会です。教義や教えが問題を解決するときの助けとなり、霊的な癒しにつながる力となることを会員に思い出してもらい機会なのです。」

チリ・サンティアゴ・コンチャリステークのアルベルト・ゴンサレスワードのルイス・アルベルト・ロドリゲス・アラルコン監督(43歳)が努力しているのは、聖餐会の出席者を増やすこと、そして、ワードの会員全員が天の御父のもとに帰る備えをするのを助けることです。アラルコン監督の大切な責任の一つがアロン神権の会長としての召しです。「わたしの目標は、若い男性を強め、彼らが専任宣教師となるための準備を手伝うことです」と監督は言います。ロドリゲス監督は、日曜日には祭司定員会に出席しています。「若い男性が祭司定員会を出るまでに必ず何らかの召しを経験してもらうようにしています。彼らが成長できるように、すべての若い男性に奉仕する機会を与えるのです。」

ロドリゲス監督は若い男性、若い女性それぞれと良い関係を築けた理由をこう述べています。「わたしは彼らの監督というだけでなく、友達でもあるからです。わたしは子供たちと会い、話し、教え、愛しています。教室の中でも、わたしの監督室でも、活動の場でも、どこでも一緒に話をします。そして自分のことを話してごらんとってあげるのです。できるかぎり彼らと一緒にいることを、特に心がけています。」

わたしがチリのコンセプションにいたとき、当時の監督からわたしは同じような指導を受けました。パスクアル・サーベドラ監督はいつもわたしを助けてくれました。ですからわたしも、担当する青少年の一人一人に同じようにしてあげようと努めているのです。」

メルキゼデク神権

この上位の神権は最初「神の御子の位に従う聖なる神権」という名で知られていました。しかし「至高者の名を敬い尊ぶことから、この名をあまり頻繁に繰り返すのを避けるために」、アブラハムの時代に存在した「偉大な大祭司」にちなんでメルキゼデク神権と呼ばれるようになりました(教義と聖約107:2-4参照)。メルキゼデク神権者はアロン神権の義務を果たします。メルキゼデク神権の職には長老、大祭司、祝福師、七十人、使徒があります。

長老。長老は、教え、バプテスマを施し、教会を見守るために召されます。また、^{あんしゅ}按手によって^{たまもの}聖霊の賜物を授け、集会を管理し、病人を癒し、子供の命名と祝福を行う権能を有しています。

日本横浜ステーク、洗足池ワードの石坂誠兄弟(26歳)は18歳になったときに父親からメルキゼデク神権を受け、長老に聖任されました。誠兄弟はまだ高校生でしたが、メルキゼデク神権者として家族のために神権を行使しなければならない緊急事態に直面していました。14歳の弟、勇兄弟が悪性の脳腫瘍を患っていたのです。

手術から目覚めた勇兄弟の最初の言葉は、「祝福を受けたい」でした。誠兄弟は1年以上前から何度も、父親とともに勇兄弟に神権の祝福を授けてきました。「祝福する前に病院の狭い部屋で祈り、深く考えました。祝福を授けるときには、天の御父がわたしを道具として使ってくださいていることをいつも感じます」と誠兄弟は話します。

入院中勇兄弟はセミナーを勉強し、泣き言を並べることなく、祝福に対する感謝の気持ちを表していました。弟の様態が急変したとき、



**新約の時代に
イエス・キリストの
使徒であった
ペテロ、ヤコブ、
ヨハネの3人が
預言者
ジョセフ・スミスと
オリバー・カウドリに
メルキゼデク神権を
授けました。**

誠兄弟は絶望的な気持ちで「どうして、こんなことが起こるのですか」と祈りました。そのとき、主の声を聞いたのです。「それはわたしの心を深く貫きました。勇が天で必要とされていることを、わたしは御霊を通して知ったのです。怒りと不安は消え、平安と希望に変わりました。48時間後、勇は亡くなりました。16歳でした。」誠兄弟は勇兄弟の墓を奉獻し、弟に代わって神殿の儀式を受けました。その後彼は専任宣教師となりました。「神権は儀式を執行する者、それを受ける者の両方に祝福を与えて、双方を清めることができるのです」と彼は言います。

フィジー・スバステーク、スバ第3ワードで長老の職にあるシミオネ・セマ(29歳)はステーク書記とワードの若い男性会長を務めています。「メルキゼデク神権に聖任されたとき、何もかもがわたしには初めてのことでした。それで妻から何度も『あなたは病人を癒したり、ほかの神権の儀式を執り行えるのよ』と言われたほどでした。」シミオネと妻、そして息子がトンガ・ヌクアロファ神殿で結び固めを受けた後、娘が生まれました。彼は娘に命名し、祝福を授けました。彼はこう話してくれました。「驚くべき経験でした。わたしは家族の族長としての役割を果たしていたのです。神権を通して家族やほかの人を祝福するのは、すばらしいことです。従順とイエス・キリストの大きい御名を通して発揮される天の力がこのわたしにも得られるのです。何とすばらしいことでしょうか。」

大祭司。大祭司は管理する権利と責任を有しています。兄弟がステーク会長会、高等評議員、監督会に召されるとき、またそれ以外にも、ステーク会長の判断で大祭司に聖任されます。

ダルムシュタットワードの大祭司であるボルフガング・ピルツ(50歳)は、ドイツ・マンハイムステークのステーク会長を務めています。ピルツ会長は言います。「わたしの人生はこれまで何度も神権の力によって祝福を受けてきました。例えば、父や祖父、監督、ステーク会長、それに主の使徒がわたしの頭に手を置いて神権の権能を授けてくれたり、教会の召しに任命してくれたりしたときなどです。彼らは主の名によって語り、主の祝福をわたしが受けられるように願い求めてくれま

した。」そして今度は、ピルツ会長が「愛する人たちに天の祝福を呼び求める」ことができるようになりました。「わたしの子供たちが何か困難に直面したとき、自然にわたしに祝福を求めるようになっていきます。」

ステークを管理することは「しばしば大変に重い責任」だとピルツ会長は言います。「特にこのステークの地域内に住む、何十万人という福音をよく知らない人たちのことを考えるとき、そう感じます。しかし、神権を通して、また、祈りによって直接天に語りかけることで、この重荷を背負うことができ、少しずつ不安が消え去り、緊張が解け、代わりに内なる平安と安心感に包まれます。」



大祭司のジェラルド・ジャン・コーセ(中央)。一緒にいるのはフランス・パリステークのステーク副会長と会員たち。

ピルツ会長は、教会員が悔い改めの過程を踏むよう助けるときに、自分の召しに伴う最大の経験を幾つかしました。「神の救いの奇跡をその方たちとともに経験することほど、大きな平安と満足感を覚えるものはほかにありません」とピルツ会長は語ります。

フランス・パリステーク会長を務めるベルサイユワードのジェラルド・ジャン・コーセ(40歳)は、イエス・キリストが示された模範に従った方法で指導しようと努力しています。彼はこう説明しています。「管理する人は仕える人でなければなりません。規則を与えて人生とは何かを説くだけでは、だめなのです。むしろ、人が霊的に自立するように教えなければなりません。人が聖霊を通して正しいことを行う靈感を求め、授かる能力を身に付けるときに、わたしの目的は達成します。」

委任することによって、委任を受けた人はほかの人を助けられるようになり、成長できます。「わたしと一緒に責任を果たしてくれる人たちに感謝します。ステーク副会長たちは良い意見を出し、携わっている仕事で救い主の代理人を務めています。この感謝の思いは高等評議会の会員に対しても、監督をはじめとするステークのすべての指導者に対しても同じです。ステーク扶助協会の会長は姉妹たちのことをよく知っており、わたしの気づかない多くのことに気づいてくれます」とコーセ会長は話します。

ステークの会員と面接をすることが、この召しを果たす会長にとって最も力づけられるときです。コーセ会長は言います。「面接をしてだれかの力になろうとすると、状況がどんなに困難であっても、同じように気持ちが豊かになり、満た

「**神** 権を通して
家族やほか
の人を祝福
するのは、すばらしい
ことです。
従順とイエス・キリスト
の^{みな}大なる御名を
通して発揮される
天の力がこのわたし
にも得られるのです。
何とすばらしいこと
でしょうか。」

シミオネ・セマ、長老、
フィジー





「**イエス・キリストの特別な証人とは、創造主、復活者、あがな贖い主、救い主、裁き主、そして、世の光であり命であるキリストの救いの業をあかし証する証人であるということです。」**

ダレン・H・オークス長老、使徒、フィリピン

され、慰められ、励まされることがよくあります。」

祝福師。祝福師は教会員に祝福師の祝福を授けます。この祝福は録音され、祝福を受けた人が生涯を通じて研究できるように文書化されます。祝福師は、祝福を受ける人に、どのような霊的可能性や機会に恵まれているかを理解する力を与え、血統を伝え、勧告と祝福の言葉を授けます。

フンベルト・アルドン・エルナンデス(77歳)はグアテマラ・グアテマラシティ・ラスビクトリアステークの祝福師として奉仕している、ビクトリアスワードの会員です。「主の手に使われる者として主の子供たちを祝福することは素晴らしい特権です。祝福師という召しは祝福することであって、運営にかかわる事柄に携わることはありません。祝福師はその召しに全力で献身し、主の御霊の力を受けるにふさわしい生活をしなければなりません」と彼は話しています。祝福師の祝福をまだ受けていない人に対して、アルドン兄弟は次のように勧めています。「この素晴らしい祝福を得るために必要なことは何でもぜひ行ってください。」また祝福師の祝福を受けた人にも「何度も読んでください。そうすれ

ば、あなたを祝福したいと願っておられる、愛に満ちた御父からのメッセージを見いだすことでしょう」と言っています。

アリゾナ州ユマステーク、ユマ第4ワードの会員であるジャック・R・カーバー(62歳)はステーク祝福師です。祝福を授けるためにどのような備えをしているかについてカーバー兄弟は次のように話しています。「わたしは、今までよりずっと真剣に、毎日できるかぎり福音に従った生活をしようとしています。いつもそのことが念頭にあります。」カーバー兄弟はまた、祝福を授けるときに御霊が得られるかどうかについて、こう話しています。「祝福を受ける人にも大きな責任があります。受ける人も準備をし、祈りを込めて臨む必要があります」と話します。

メキシコ・モンテレー・ローマステークで祝福師として奉仕している、カンペストレワードの会員、ホセ・フンベルト・ゴンザレス・ガルサ(69歳)は、祝福師の祝福が人々の人生を変えるのを見てきました。彼が覚えている人の中に、神殿で奉仕できるようになると約束を受けた一人の年配の女性がいます。彼女は高齢で

あり、神殿から遠い所に住んでいるという理由から、そんなことは実現するはずはないと思っていました。しかしその後、近くに神殿が建ち、彼女は奉仕の喜びを見いだしました。

「この責任を果たすとき、心からの充実感を覚えます」とゴンザレス兄弟は言います。視覚に障害のあるゴンザレス兄弟は、外出時には杖を使います。また、補聴器も使っています。昔ほど多くのことができないと感じるときもあります。しかし、こう言います。「子供たちから『お父さん、これから祝福を受けるのですか』と尋ねられると、わたしは『いや、わたしが祝福を受けるんだよ』と答えています。」

七十人。七十人はイエス・キリストの特別な証人です。割り当てを受けた場所なら世界中のどこにでも教会を建て、管理し、強める助けをします。七十人の第一、および第二定員会の会員は中央幹部としての支持を受け、第三、第四、第五定員会の会員は地域幹部七十人として支持されます。

「七十人の会員は……聖任されるときに、使徒の権能を受けます。それは、十二使徒によって派遣されて、イエスがキリストであられることを証し、全世界に出て行く力です」と七十人会長会のアール・C・ティンギー長老は説明しています。*

アジア地域の地域幹部七十人である陳思強長老(60歳)は中国系マレーシア人ですが、現在はシンガポールに住んでいます。長老は言います。「この召しのおかげでわたしは、教会が世界中で活動していることを経験できます。わたしが担当しているのは、モンゴル、カンボジア、インドネシア、インド、パキスタン、マレーシア、スリランカ、シンガポール、タイ、台湾、香港です。」この責任は彼の考え方を大きく変えました。「ちょうど『高い山』に連れて行かれて『見なさい』と言われているようです(1ネーファイ11:1, 8参照)。

伝道部の訪問、大会、ステーキの再組織に携わっていますが、指導力を高め、信仰と理解を深める助けをするこれらの責任を果たすには、御霊に頼ることがどうしても必要です。

これらの国々で集会に出席すると、様々な言語でシオンの



フンベルト・アルドン・エルナンデス、祝福師、グアテマラ

賛美歌が歌われ、祈りがささげられ、証が述べられるのを耳にします。また、宣教師たちが教え、証するのを見ていると、次の聖句の預言が成就するのを目の当たりにしているのが分かります。『その日には、イエス・キリストを啓示するために注がれる慰め主の働きによって、この力を有する職に聖任される者たちを通じて、すべての人が自分の言葉と自分の言語で完全な福音を聞くであろう。』(教義と聖約90:11)」

多くの神権指導者が家族から受ける支援の重要性について話しますが、陳思強長老も同じように述べています。「妻や家族の助けがなければこの特権、つまり祝福を得ることは



ジャック・R・カーバー、祝福師、アメリカ合衆国

できないでしょう。妻の信仰と証、そして彼女が子供たちに与えているすばらしい影響にとっても感謝しています。」

オーストラリア／ニューージーランド地域の地域幹部七十人であるリンゼー・T・ディル長老(52歳)の言葉です。「七十人は知らない人たちでさえもすぐに愛せるようになります。御霊がその人たちも神の息子、娘であるという確認を与えてくれるからです。わたしは頻繁に旅をしますが、どこへ行っても、忠実な末日聖徒とすばらしい神権指導者に会います。自分の至らなさを実感しますが、それでも御霊の助けによって主が望まれることを果たせます。そのことを思うと、謙虚な気持ちになります。

どこへ行ってもわたしは、イエスがキリストであられるというメッセージをお伝えし、『人が救われる[に]は……決してほかの方法や手段はないことを』証しようと努めています(アルマ38:9)。この召しによって、救い主の贖いに対する証は強くなりました。わたしは、救い主の神聖な役割の証人なのです。」

使徒。使徒は全世界に対するイエス・キリストの特別な証人です。大管長会、および十二使徒定員会の会員として、世界規模に広がる教会を管理運営しています。使徒は全員が地上における神の王国のすべての鍵を受けていますが、あらゆる鍵を行使する前任使徒、すなわち大管長の指示を受けて働きます。

十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老(71歳)は現在、フィリピンで地域会長としての奉仕に従事しています。オークス長老はこう言っています。「神権によってわたしの人生は祝福されてきました。神権を受けたことで、この権能を行使するという聖約、主と主の子供たちに仕えるために力を尽くすという聖約を結んだことによる祝福です。これらの義務には人を鍛錬するための深遠な力が伴っており、わたしが人生で様々な選択を行うとき、その影響を受けてきました。また、神の神権はわたしを祝福し、わたしたちが忠実であるならば、わたしが最も愛する人たちは永遠にわたしのものであるという確信を与えてくれました。

わたしたちが神権にかかわる聖約を守るとき、必然的に人々の生活を祝福することになります。人々に奉仕することにより、また、わたしたちの奉仕の模範を通して祝福を与えるのです。これにより、わたしたちが直接仕える人たちにとどまらず、もっと多くの人たちに益をもたらすことができるのです。わたしたちは導き、教え、神権の儀式を執行することで、また戒めを守ることで人々に仕えます。

使徒として最高の充実感を味わうのは、人々の生活がイエス・キリストの福音の祝福を受けて豊かになるのを見るときであり、主に仕えることに進んで生涯をささげ、そのために必要な犠牲を喜んで払う、世界で最も素晴らしい人たちと交わる機会に恵まれるときです。」

オークス長老はイエス・キリストの特別な証人としての使徒の役割について次のように説明しています。「イエス・キリストの特別な証人は、神権、つまり主の権能に対

する証人であり、創造主、復活者、贖い主、救い主、裁き主、そして、世の光であり命であるキリストの救いの業を証する証人です。彼らは、真理と救いの計画の力について、それに伴うあらゆる教義、儀式、戒め、聖約、祝福を含めて証をします。また、神の息子、娘たちに天与の可能性を追求して永遠の命を得させるといふ、栄光に満ちた目的について証します。」

すばらしく、崇高なもの

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は神権を受けた人たちにつ

いて話しています。「わたしたちはそれぞれ、すばらしく、崇高なもの、神が属性として持っておられるものの本質を授けられています。……それは命と死に関連があり、家族と教会に関係し、神御自身と神の永遠の業の持つ偉大にして卓越した属性とかかわりがあるものです。」² ■

詳しくは『福音の原則』85-92、および、教義と聖約13章、20章、84章、107章を参照してください。



**リンゼー・T・ディル長老(右)、
地域幹部七十人、
オーストラリア/
ニュージーランド地域**

この記事を掲載するに当たり、教会機関誌スタッフは以下の方々の協力を頂きました。マイケル・カークパトリック、マージド・カークパトリック(ガーナ); ネストール・クルベロ(アルゼンチン); アルビン・ロトリア(スロベニア); マイク・ラミレス(フィリピン); ウルジミール・エゴロフ、オルガ・ディレフスカヤ、サンドラ・パンダイク(ロシア); シャーリーン・ソーンダース(スイス); エミリー・簡(台湾); マルセラ・オパソ・サンドバル、クラウディア・モンカーダ・バルデス(チリ); 岡田琢治(日本); セラ・パレナガサウ(フィジー); マーク・マッキンジー(ドイツ); ジーン・マリー・ハウザー(フランス); ビルナ・ロドリゲス(グアテマラ); デビッド・ソーネル、リンダ・ソーネル(香港/シンガポール/シンガポール); スーザン・ワトキンス(オーストラリア/ニュージーランド)。

注

1. 「地域幹部七十人『全世界でわたしの名を証する』『リアホナ』2002年10月号, 28
2. 「忠誠を尽くす」『リアホナ』2003年5月号, 58

かぎ 王国の鍵

第4代大管長
ウィルフォード・
ウッドラフ
(1807-1898年)

ウィルフォード・ウッドラフは1807年3月1日、コネチカット州において、アフエック・ウッドラフとベウラ・ウッドラフ夫妻のもとに生まれました。1833年12月31日、初期の教会の宣教師ゼラ・パルシファー

の手によって、ニューヨーク州リッチモンド近郊の氷のように冷たい川でバプテスマを受けています。1839年4月26日、ブリガム・ヤングにより使徒に聖任され、1889年4月7日に教会の大管長となりました。そして1898年9月2日、カリフォルニア州サンフランシスコにて亡くなりました。この話は、ウィルフォード・ウッドラフ大管長が1889年6月2日に若い男性相互発達協会大会で語った説教の一部です。

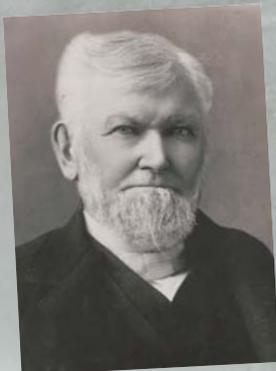


この大会を閉じるに当たって、^{あかし}証しておきたいことがあります。……神の預言者ジョセフ・スミスが十二使徒に神権と神の王国の鍵にかかわる責任を託したときにその場にいた者の中で、今生きているのは……わたしただ一人です。そのわたしにも世の人の例に漏れず、この世を去る時が近づいてきました。そこで、この場

にいらっしゃる末日聖徒の皆さんに、わたしの証を残しておきたいと思うのです。

殉教の知らせ

二人の預言者〔ジョセフ・スミスと兄ハイラム・スミス〕が殉教したとき、わたしはブリガム・ヤングと一緒にボストン市におり、ある駅でベンチに腰かけていました。もちろん当時は今と違って、大陸中を駆け巡る通信手段となるような電報も



トランクを船に載せて
義父に別れを告げようと
したそのとき、
一人の男性が店から
飛び出して来ました。
新聞を手に
叫んでいます。
「カーターさん、
ジョセフ・スミスと
ハイラム・スミスが
殉教しました。」

絵/ロバート・T・バレット、写真/クリスティーナ・スミス、工芸品は教会歴史美術博物館の厚意により掲載。



なければ速報ありません。
そのときブリガム・ヤングは、ピーターバロに行くために列車を待っていました。そこに腰かけている間、わたしたちは生まれてこの方感じたことのないような、暗く憂うつな思いにとらわれました。……なぜそのような気持ちになるのか、ブリガム兄弟にもわたしにも理解できませんでした。その理由は、

預言者たちの死を知らされたときに初めて分かることとなります。ブリガム兄弟は列車に乗りましたが、わたしはボストンに残り、翌日フォックスアイランドに向けて出発しました。フォックスアイランドはわたしがその数年前に訪れて大勢の人々にバプテスマを施し、両島

(訳注——フォックスアイランド地区は二つの島から成っている)に支部を開設した所です。義理の父であるエズラ・カーターが、わたしを荷馬車に乗せてスカーボラーからポートランドまで

送ってくれました。わたしはそこで蒸気船に乗るための切符を買ったのです。トランクを船に載せて義父に別れを告げようとしたそのとき、一人の男性が店から飛び出して来ました。靴職人でしたが、新聞を手で叫んでいます。「カーターさん、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスが殉教しました。カーセージの監獄で殺されたんです。」

その新聞を見た瞬間、御霊^{みたま}がわたしに告げました。「そこに書いてあるとおりです」と。だれかに相談する時間ありません。出航のベルが鳴っています。わたしは船に足をかけてトランクを陸に戻しました。トランクを引きずり降した瞬間、船の渡し板は引き上げられました。わたしは義父のカーターに頼んで、荷馬車でスカーボラーに送り帰してもらいました。そして、そこからボストン行きの列車に乗ったのです。……

翌日、わたしはボストンの街中にあるボセ姉妹の家の向かいで、ボストンに戻ったばかりのブリガム・ヤングと会いました。わたしたちは互いに握手を求めはしたものの、一言も話すことができませんでした。ボセ姉妹の家に入って腰かけると、ブリガム兄弟もわたしも手で顔を「覆いました。」悲しみに打ちひしがれ、とめどなく流れる涙で、わたしたちの顔は見る間にびっしょりとぬれてしまいました。……やがて嗚咽も収まり、わたしたちは預言者たちの死について言葉を交わしました。ブリガム・ヤングは話しながら、自分のひざに手を打ちつけて言いました。「良かった。王国の鍵^{かぎ}はここにあるのだ。」……

最後の集会

ヤング会長やわたし、それに十二使徒定員会のだれもがそのときしなければならなかったことはすべて、わたしたちが伝道の旅に出る前に開かれた預言者ジョセフとの最後の集会で与えられた指示に従うことでした。この集会については、わたしはこれまでの人生で何度もお話ししてきました。

今になって思えば、預言者ジョセフには、それが十二使徒とともにこの世で開く最後の集会だということが分かっていたのです。わたしたちはすでにエンダウメントを受けていましたし、生きて地上にいる十二使徒や預言者に、当時までに与えられていた祝福はすべて、わたしたちの頭に結び固められていました。その場で預言者ジョセフは立ち上がり、わたしたちにこう言いました。「兄弟たち、わたしはこの神殿が完成するのをこの目で見たいと望んでいました。わたしはこの目でそれを見ることはないでしょう。しかし、あなたがたは見るのです。わたしは、あなたがたの頭に神の王国のすべての鍵を結び固めました。天の神がわたしに啓示されたすべての鍵、力、原則をあなたがたに結び固めたのです。今や、わたしがどこへ行くかと何をしようと、王国はあなたがたのうえにあるのです。」

さて、神の預言者がわたしたちから取り上げられようとしていることを、十二使徒ともあろう者がなぜ理解できなかったのかと、皆さんは不思議に思われるのではないのでしょうか。でも、わたしたちには理解できなかったのです。イエス・キリストが地上におられた時代の十二使徒は、イエスが語られた次の言葉が意味するところを理解できませんでした。「わたし〔は〕去って行く……。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。」「〔ヨハネ16:7参照〕同様にわたしたちにも、ジョセフの言わんとすることが理解できなかったのです。これらのことをなし終えてから、ジョセフ・スミスは言いました。「しかし、神の小羊の十二使徒であり、わたしの兄弟でもある皆さん、この王国の行く末は、あなたがたの双肩にかかっているのです。ですから、心して神の王国を支え、強めていかなければなりません。」それにジョセフはまた、珍しくこのような宣言をしています。「これを行わなければ、皆さんはのろいを受けることになります。」

この宣言を聞いた者の中で、今生きているのはわたしだけです。そして、この宣言は確かに成就しています。なぜなら、神の王国の鍵やこの教会の十二使徒の職を持ちながら、福音の原則を踏みにじったり、否定したり、原則から外れたことを行ったり、自分の手に託された主の業に献身することをやめて自分の利益のために働くようになったりした人々の中に、のろいを受けなかった者や神の怒りを身に招かなかった者は、これまで一人たりともいなかったからです。

鍵はここにある

主は、ジョセフ・スミスに王国の鍵とメルキゼデク神権の鍵と十二使徒の職を授けてその頭に結び固められました。そのとき、主はそれらが人の子の再臨までこの世にとどまるように結び固められたのです。ブリガム・ヤングはこのことを次の言葉で巧みに表現しています。「神の王国の鍵はここにある。」この鍵は、死ぬまでブリガム・ヤングが持っていました。そして、ブリガム・ヤングの死後、ほかの人の頭に下りました。ジョン・テラー大管長です。ジョン・テラー大管長は、死ぬまでこの鍵を持っていました。その死後、神の摂理にもよるのですが、機会が巡ってきて、王国の鍵はわたし、ウイルフォード・ウッドラフのうえに下ったのです。

わたしは、末日聖徒の皆さんに申し上げます。王国の鍵はここにあります。人の子が来られるときまで、取り去られることはありません。イスラエルの民よ、このことを理解してください。わたしがこの鍵を所有している期間は、あまり長くはないかもしれません。しかし、わたしの時が過ぎれば鍵はほかの使徒の頭に下ります。その使徒の次にはまた次の使徒の頭にといった具合に、主イエス・キリストが天の雲に包まれて来られ、「すべての人に、その肉においてなした事柄に応じて報いを与えられる」ときまで継承されていくのです〔*History of the Church*, 第1巻, 245参照〕。……

わたしたちは主の手の中にある

……わたしは今日、すべてのイスラエルの民に向かって言います。全世界の人々に向かって申し上げているのです。この教会と王国を組織されたイスラエルの神は、御自身が聖任された大管長や大管長会の人々が民を誤った道に導くことを決してお許しにはなりません。イスラエルの民よ、よく聞いてください。この世にいやしくも生を受けた者の中で、神の王国の鍵を持ちながら、人々を悪の道に踏み誤らせる者があってはならないのです。……

神に仕え、神を尊ぶと心に決めてください。この王国について何も恐れる必要はありません。



ん。主が正しく導かれるからです。もしわたし、ウッドラフ兄弟や、大管長会のほかの一員が、皆さんを間違った道に導くようなことがあれば、主はわたしたちをその道から取り去られることでしょう。わたしたちは、主の手の中にあります。そして王国の鍵は、世を治める権利をお持ちの主が来られるときまで、イスラエルの神の所有となり、神がこれを行使されることとなるのです。■

1889年9月2日付けの『ミレニアル・スター』(Millennial Star), 545-549に掲載。小見出しは追加、段落分けは変更してあります。

預言者ジョセフは立ち上がり、わたしたちにごう言いました。

「わたしは、あなたがたの頭に神の王国のすべての鍵を結び固めました。

……今や、わたしがどこへ行こうと何をしようと、王国はあなたがたのうえにあるのです。」

質疑応答

世の中や自分の学校でさえも、非常に多くの恐ろしい出来事が起きています。
どうすれば平安を感じることができるでしょうか。

『リアホナ』からの提案

わたしたちは、恐怖と悲惨な出来事に満ちた世界に住んでいます。しかし、取り巻くすべてのものが混乱していても、心の中に平安を感じることができます。イエス・キリストは、使徒たちに約束されたのと同じ平安をわたしたちにも下さっています。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27)

自分の生活に平安を招き入れるうえで助けとなることは多くあります。祈りや聖文研究、精神を高揚させる音楽の鑑賞、教会やセミナー、インスティテュートへの出席、神殿参入などです。しかし、それらは皆一つの事柄に集約されます。「平和の代価は義です」とエズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)は言いました(*The Teachings of Ezra Taft Benson* [1988年], 703)。またゴードン・B・ヒンクレイ大管長は次のように語っています。「皆さんが福音に従って生活するならば、平安

逆境のさなかにあっても、心^{こころ}に平安を感じることができます。

わたしたちは、聖約と戒めを守るときに平安を感じることができます。

試されたり、悪いことが起きたりしても、神が見守ってくださっているという静かな確信を得ることができます。

平安は聖霊を通して授けられる。そのため、聖霊を伴^はりよとできるようふさわしくなければならぬ。

悔い改めによって罪と罪悪感から開放され、再び心に平安が宿る。

と幸福を見いだすでしょう。」「(「生ける預言者の言葉」『聖徒の道』1997年3月号, 16参照)

平安を得るには、完全でなければならないということではありません。しかし、最善を尽くして正義を選び、過ちを犯す度に立ち直る努力をしなければなりません。

主の平安を心に感じることは、なぜわたしたちの義によって左右されるのでしょうか。一つの理由は、間違っ^{まちが}ったことをしながら正しいと感じることはできないからです。また、イエスが与えてくださる平安は、慰め主である聖霊を通してもたらされます。そのため、わたしたちは御霊^{みたま}を伴^はりよとするためにふさわしい生活をしなければなりません。もし罪を犯したなら、罪悪感によって主の平安を感じられなくなります。しかし、悔い改めるなら、罪悪感や罪から解放され、再び聖霊を伴^はりよとするにふさわしくなるのです。

平安を与えるというイエス・キリストの約束は、苦しみのない人生を保証したものではありません。それを知ることは大切です。わたしたちは皆、試されます。それは、わたしたちが現世にいる理由でもあります。時には、自分や身近な人たちの身に悪いことが起きますが、



写真／ロバート・ケーシー、写真はイメージです。

それでも平安を得ることができます。

リバティーの監獄での数か月に及ぶ苦難の末に、預言者ジョセフ・スミスは神からこれらの言葉を授かりました。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。」(教義と聖約121:7-8)

わたしたちの試練は、つかの間では終わらないように思われます。しかし、神の助けによってさらに強くなれるのです。

ジェームズ・E・ファウスト第二副管長はこう語りました。「わたしたちは困難な時代に直面しています。それは確かです。わたしたちは従順であることに雄々しくなければなりません。わたしたちは将来、霊的な持久力を試すように求められるでしょう。なぜなら苦難と困難の時代が来るからです。しかし、神との個人的な関係に確かな慰めを得ているならば、静かな勇気を与えられるでしょう。」(「唯一の、まことの神でいますあなたと、イエス・キリストとを知る」『リアホナ』1999年2月号、5-6参照)

読者からの提案



現代の啓示にはこう記されています。「義の業を行う者はその報いを受ける、すなわち、この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受けるといことを知っておきなさい。」(教義と聖約59:23) 救い主や現代の預言者たちが教えているように、わたしたちは福音に従って生活することにより平安を見いだすことができます。フィリピン・ジェネラルサントスステーク、ジェネラルサントス第4ワード
イスラエル・O・ベラスコ、17歳

歴史上のいつの時代にも争いはありました。けれども、戒めと福音の原則に従うならば、主の約束は成就し、わたしたちの心は平安で満たされます。もしわたしたちが勤勉で終わりまで堪え忍ぶならば、信仰を失うことなく苦難のときに耐えることができるでしょう。

エクアドル・グアヤキル・ガルシアモレノステーク、
ポリバーワード

カルロス・フレーレ、16歳

平安は御霊の実の一つであるため、平安を感じるうえで役立つことは清い生活を送ることです。そうすれば聖霊の導きを得ることができます。わたしは歌うことが大好きです。そして歌うことで平安がもたらされます。賛美歌を歌ったり、編曲された賛美歌を聞いたりすることで、気持ちが落ち着き、御霊がとどまるよう助けられます。

パナマ・サンシドロステーク、ラスコリナス支部
オスカー・ルシアノ・マッケイ・ロペス、17歳



わたしは聖文を読んだり、善い行いをしたり、導きを求めて絶えず天の御父に祈ったりすることによって平安を感じます。天の御父は、特にこのような悪い時代にあつて、物事をたやすくできるようにしてくださいませ。

フィリピン・マティ地方部、マティ第2支部
デニス・タラボク、13歳

試練や悲惨な出来事が頻繁に起きていても、神の存在を知ることによってわたしは自分の生活の中に平安を見いだすことができます。神はあらゆるものを治める絶対的な力を持っておられます。また、わたしたちを愛し、一人一人を御存じです。自分の生活の中で改めるべきものがあるなら、今すぐそれを行わなければなりません。そうすれば、主の御霊がわたしたちの生活に与えることのできる完全な平安を享受することができます。

ニカラグア・レオン地方部、ロスレパルトス支部
ラケル・アイベス・ウルタド、17歳



「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。」(教義と聖約19:23)この聖句は、身の周りでどんなことが起ころうとも平安



「現 在は危険に 囲まれた時代 で

しょうか。そのとおりです。けれども恐れる必要はありません。心に平安を、家庭に平和を得ることができます。わたしたちは皆、この世にあつて善なる影響を及ぼすことができます。

わたしたちは待ち受けている不安な日々をそれぞれに生きています。全能者である天の神がわたしたちを助け、祝福してくださいませように。揺るぎない信仰をもって神に頼ることができますように。」

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー
「わたしたちが生きている時代」
[リアホナ]2002年1月号, 86

を見いだす方法を教えてください。わたしはこの聖句を生活に当てはめることによって、心に平安を見いだしました。

ケベック州モンリオールステーク、ラバルワード
ナターシャ・D・レミレ、14歳

主の平安を感じることは、いつも容易であるとは限りません。結局、わたしたちは試しの時期にあり、毎日試されているのです。けれども、戒めを守り福音に従って生活するなら平安を得ることができます。

ドイツ・ノイミュンスターステーク、
ランゲンホルンワード
ビヨエルン・T・クーヘル、20歳



いかなる逆境のさなかにあつても、平安や幸福を得ることはできます。^{あかし}証を盾とすることによって、どのような逆境にも立ち向かうことができます。イエスが救い主であり、神が御父であられるという知識は、人生の嵐の中にあつて^{いかり}錨となります。どのような逆境も、信仰と強い証を持つときに訪れる幸福と平安には打ち負かされてしまいます。

ブラジル・ベロオリゾンテステーク、グアラニ支部
フランシエリー・アパレシダポスタ、19歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

あなたの意見を聞かせてください

青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対する意見を、氏名、年齢、ワード/ステーク(または支部/地方部)を明記のうえ、写真を同封して、2004年5月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

Questions and Answers 05/04
50 East North Temple Street, Floor 24
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
cur-liahona-imag@ldschurch.org

質問

「何人かの人から、わたしは劣等感を抱いているのではないかと告げられました。確かにわたしは劣っています。周りの人のように頭がいいわけでもなく、顔だちがよくて才能があるわけでもありません。どうすれば自信を持ち、もっと良い感情を抱けるようになるでしょうか。」■

御存じでしたか？



それは4月の出来事 でした

教会の歴史の中で4月に起こった重要な出来事をいくつか紹介します。

1836年4月3日
—救い主がモーセ、エライアス、エリヤとともにカートランド神殿を訪れ、預言者ジョセフ・ミスとオリバー・カウドリに



^{みすがた}御姿を現されました(教義と聖約110章参照)。

1847年4月5日—開拓者の最初の隊がソルトレイク盆地を目指してウィンタークォーターズを出発しました。

1961年4月28日—フィリピンでの伝道の業を開始するに当たり、当時十二使徒定員会補助だったゴードン・B・シンクレイ長老が祈りをささげました。

1999年4月24日—コロンビア・ボゴタ神殿が奉献されました。

2000年4月30日—ボリビア・コチャバンバ神殿が奉献されました。

2001年4月29日—メキシコ・グアダハラハ神殿が奉献されました。

2002年4月28日—メキシコ・モンテレー神殿が奉献されました。



断食と祈り

「断食と祈りはわたしたちの勇氣と自信を増し加える助けとなります。人格を強め、自制と自己修

養を高めることができます。義にかなった祈りと嘆願は断食によっていっそう大きな力を発揮することがしばしばあります。証が強くなり、^{あかし}靈的にまた情緒的に成熟し、心を^{きよ}聖めるものとなります。わたしたちは断食する度に少しずつ、この世間的な欲望と感情をコントロールする力を得ていくのです。」

十二使徒定員会
ジョセフ・B・ワースリン
「断食の律法」
『リアホナ』2001年7月号, 89

指導者へのヒント

ミューチャルの活動を計画するときには、役割分担を行うよう心がけてください。割り当てをする際、幾つかの基本的な手順に従うと、よりスムーズに事が運びます。

1. 果たすべき作業を確認する。
2. それぞれの作業を依頼し、だれに何を依頼したかを記録しておく。割り当てを受けてくれた人たちに、作業のことを忘れないようにメモして、一定の期日までに報告してもらうことを伝える。
3. 短い電話や訪問によって、作業の進み具合をフォローアップする。

モルモン書に対するあなたの知識を試してみましょう

1. オムナイ書の記録者の一人であるアマレカイの父親はだれでしょう。

a. ジェロム	c. アビナドム
b. オムナイ	d. ケミシ
2. アモナイハの町へ戻るよう命じられたアルマを自宅に招き、宿泊させたのはだれでしょう。

a. アビナダイ	c. ゼーズロム
b. アミュレク	d. ニーフアイハ
3. 紀元321年ごろに、ニーフアイの版をシムの丘に隠したのはだれでしょう。

a. モロナイ	c. アモス
b. モルモン	d. アマロン



4. 役割を果たし、補佐してくれる人々の働きを常に認め、感謝の気持ちを表す。

(¹モルモ 8-1:16-17) PE、(²モルモ 17-61:8-11) PE、(³モルモ 17:1-4) PE—⁴モ

「ウィンタークォーターズ」C・C・A・クリステンセン画、プリガム・ヤング大学美術博物館の厚意により掲載。版權所有。「カートランド神殿でジョセフ・ミスとオリバー・カウドリに御姿を現されたキリスト」ロバート・T・バレット画



単に時間の問題です

2002年3月、わたしは『リアホナ』の中に記されていた住所に手紙を出しました。そして7月にウクライナ・キエフ伝道部から返事を受け取りました。それには末日聖徒イエス・キリスト教会に関する資料が同封されていました。

教会が設立された当時、迫害を経験しているにもかかわらず、ほかの宗教に対して寛容な態度を示している大管長会に感謝しています。そのような姿勢は、博愛精神とクリスチャンらしい慈愛を物語るものです。現在キロボグラードは、1820年当時のニューヨークと似たような状態にあります。宗教団体が皆言い争っているのです。けれどもわたしは預言者ジョセフ・スミスにもたらされた回復を固く信じています。残念ながらわたしの住む町にまだ教会はありませんが、設立されるのも時間の問題だと確信しています。

ウクライナ・キロボグラード
グレゴリー・イワノビッチ・ティムチェンコ

『リアホナ』を通して出会った伴侶^{ほんりよ}

家族が教会に入ったのは、わたしが7歳のときでした。そして『リアホナ』を読み、貴んでいたおかげで、夫と出会いました。

毎月『リアホナ』が届くと、どこに行っても読むことができるように、『リアホナ』を持って外出することになっています。ある日、わたしは通勤バスの中で静かに『リアホナ』を読んでいた。すると一人の若い男性がそばに来て、「教会の方ですか」とわたしに尋ねました。見知らぬ人だったので用心して、わたしはそうですと答え、「どちらのステーキの方ですか」と聞いてみました（もしその男性が教会員でなければ、ステーキが何を意味するのか、分からないはずだと思ったのです）。その男性が所属ステーキを答えたので、わたしたちはバスを降りるまでずっと話をしました。

その後しばらくして、預言者を迎えるために、地区の聖歌隊が組織されました。そのころから、その男性と頻繁に会うようになりました。やがてわたしたちは結婚し、グアテマラシティー神殿で結び固めの儀式を受けました。結婚して3年の月日がたとうとしています。福音を通して、教会の教えに忠実なすばらしい夫と出会う機会が与えられたのです。生活の中に福音がある

ので、わたしはほんとうに幸せです。

ホンジュラス・テグシガルパステーク、
フラテルニダッドワード
レベカ・シエルラ・デ・セラヤ

イエス・キリストの弟子となる

日本の教会でバプテスマを受けて以来、イエス・キリストの弟子となるうえで役立つ経験をしてきました。キリストのように生活するのは容易でないことは理解していますが、熱心に聖文を学ぶとき、霊的な心地よさを味わうことができます。『リアホナ』は、天の御父がわたしに何を望んでいらっしゃるかを理解するのに、助けとなっています。大管長会メッセージが好きです。また、福音を愛する教会員の体験談もいつも楽しみにしています。

BYUハワイ第1ステーキ、
BYUハワイ第11ワード
カワノ・ヒトシ

神殿での霊的な経験をお寄せください

神殿に参入するために備え、もっと頻繁に神殿に入るように、ほかの会員を鼓舞する経験はありませんか。あなたの経験を、Temple Experiences, Liahona, Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USAまで、または電子メールで、cur-liahona-imag@ldschurch.org までお送りください。

写真/ジョン・ルーク、写真はイメージです。





「イエスは女に言われた、『女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。』マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、『もしあなたが、あのかたを移したのであれば、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります。』イエスは彼女に『マリヤよ』と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってヘブル語で『ラボニ』と言った。それは、先生という意味である。』(ヨハネ20:15-16) ジェームズ・E・ファウスト副管長「栄光の冠を受けるために」2ページ参照。